

TOSHIBA

Leading Innovation >>>

液晶ディスプレイ 取扱説明書

TD-Z421

TD-Z471

ユーザーメモ

モデル番号・シリアル番号は液晶ディスプレイ本体の背面に記載されています。

モデル番号・シリアル番号を下記にご記入ください。東芝の販売店にご連絡される際は、この番号をお伝えください。

モデル番号 : _____



シリアル番号 : _____

～最初に必ずお読みください～

安全上のご注意

商品および取扱説明書には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

【表示の説明】




表示	表示の意味
 警告	“取扱いを誤った場合、人が死亡、または重傷を負うことが想定されること”を示します。 ^{*1}
 注意	“取扱いを誤った場合、人が軽傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定されること”を示します。 ^{*2} ^{*3}

*1：重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るもの、および治療に入院や長期の通院を要するものをさします。

*2：軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などをさします。

*3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

【図記号の例】

図記号	図記号の意味
 禁止	“○”は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
 指示	“●”は、指示する行為の強制（必ずすること）を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
 注意	“△”は、注意を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

警告

異常や故障のとき

- 煙が出ている、変なにおいがするときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙が出なくなるのを確認し、お買い上げの販売店にご連絡ください。

- 画面が映らない、音が出ないときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜く

そのまま使用すると、火災の原因となります。
お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

- 内部に水や異物がいいたら、すぐに電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

- 落としたり、キャビネットを破損したりしたときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
キャビネットが破損したままで取り扱った、けがのおそれがあります。
お買い上げの販売店に、点検・修理をご依頼ください。

- 電源コードや電源プラグが傷んだり、発熱したりしたときは、本体の電源ボタンを押して電源を切り、電源プラグが冷えたことを確認し、コンセントから抜く



プラグを抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
コードが傷んだら、お買い上げの販売店に交換をご依頼ください。

設置するとき

- 本機はコンセントから電源プラグが抜きやすいように設置する



指示

万一の異常や故障のとき、または長期間使用しないときなどに役立ちます。

- 屋外や浴室など、水のかかるおそれのある場所には設置しない



風呂、シャワー室での
使用禁止

火災・感電の原因となります。

- 振動のある場所に設置しない



振動禁止

振動で液晶ディスプレイが移動・転倒し、けがの原因となります。

- 電源プラグは交流100Vコンセントに根元まで確実に差し込む



指示

- 交流100V以外を使用すると、火災・感電の原因となります。
- 差し込みかたが悪いと、発熱によって火災の原因となります。
- 傷んだ電源プラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

- 壁に取り付けて使用する場合、壁掛工事は、お買い上げの販売店に依頼する



指示

工事が不完全だと、けがの原因となります。

～最初に必ずお読みください～

安全上のご注意 つづき

設置するとき つづき

■ 転倒・落下防止の処置をする



指 示

転倒・落下防止の処置をしないと、液晶ディスプレイの転倒・落下によってけがなどの危害が大きくなります。

転倒・落下防止のしかたは「[図3](#)」をご覧ください。

使用するとき

■ 修理・改造・分解はしない



分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電・火災の原因となります。

内部の点検・調整および修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ 電源コード・電源プラグは、



禁止

- 傷つけたり、延長するなど加工したり、加熱したり(熱器具に近づけるなど)しない
- 引っ張ったり、重いものを載せたり、はさんだりしない
- 無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしない

火災・感電の原因となります。

■ 異物を入れない



異物挿入禁止

通風孔などから金属類や紙などの燃えやすいものが内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。特にお子様にはご注意ください。

■ 雷が鳴りだしたら液晶ディスプレイ・電源コードおよび本機に接続した機器やケーブル・コードに触れない



禁止

感電の原因となります。

■ 包装に使用しているビニール袋でお子様が進んだりしないように注意する



指 示

かぶったり、飲み込んだりすると、窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

お手入れについて

■ ときどき電源プラグを抜いて点検し、刃や刃の取付け面にゴミやほこりが付着している場合は、きれいに掃除する



指 示

電源プラグの絶縁低下によって、火災の原因となります。

⚠ 注意

設置するとき

■ 温度の高い場所に置かない



禁止

直射日光の当たる場所やストーブのそばなど、温度の高い場所に置くと火災の原因となることがあります。

また、キャビネットの変形や破損などによって、感電の原因となることがあります。

■ 通風孔をふさがない



禁止

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- 壁に押しつけしないでください。(10cm以上の間隔をあける)
- 押し入れや本箱など風通しの悪い所に押し込まないでください。
- テーブルクロス・カーテンなどを掛けたりしないでください。
- じゅうたんや布団の上に置かないでください。

■ 湿気・油煙・ほこりの多い場所に置かない



禁止

加湿器・調理台のそばや、ほこりの多い場所などに置くと、火災・感電の原因となることがあります。

■ 移動したり持ち運んだりする場合は、



指 示

- 包装箱から出すとき、持ち運ぶときは、2人以上で取り扱う
- ひとりで取り扱おうと、からだを痛めたり、液晶ディスプレイを落としてけがをしたりする原因となることがあります。

● 液晶ディスプレイを押したり液晶ディスプレイを支えていなかったりすると、液晶ディスプレイが落下してけがの原因となることがあります。

● 衝撃を与えないように、ていねいに取り扱い
液晶ディスプレイが破損してけがの原因となることがあります。

■ 車(キャスター)付きのスタンドに設置する場合は、キャスターが動かないように固定する



指 示

固定しないとスタンドが動き、けがの原因となることがあります。

畳やじゅうたんなど柔らかいものの上に置くときは、キャスターをはずしてください。キャスターをはずさない、揺れたり、傾いたりして倒れることがあります。

使用するとき

■ コンセントや配線器具の定格を超える使いかたはしない



禁止

タコ足配線をししないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張って抜かない



引っ張り禁止

電源コードを引っ張って抜くと、電源コードや電源プラグが傷つき火災・感電の原因となることがあります。電源プラグを持って抜いてください。

■ めれた手で電源プラグを抜き差ししない



めれた手禁止

感電の原因となることがあります。

■ 液晶ディスプレイやスタンドにぶら下がったり、上に乗ったりしない



禁止

落ちたり、倒れたり、壊れたりしてけがの原因となることがあります。特にお子様にはご注意ください。

■ 長期間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜け

万一故障したとき、火災の原因となることがあります。本体やリモコンの電源ボタンを押して画面を消した場合は、本機への通電は完全には切れていません。本機への通電を完全に切るには、電源プラグをコンセントから抜いてください。

～最初に必ずお読みください～

安全上のご注意 つつき

使用するとき つつき

- リモコンに使用している乾電池は、



禁止

- 指定以外の乾電池は使用しない
- 極性表示 \oplus と \ominus を間違えて挿入しない
- 充電・加熱・分解したり、ショートさせたりしない

- 火や直射日光などの過激な熱にさらさない
- 表示されている「使用推奨期限」の過ぎた乾電池や、使い切った乾電池はリモコンに入れておかない
- 種類の違う乾電池、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しない
これらを守らないと、液もれ・破裂などによって、やけど・けがの原因となることがあります。
もれた液が目にはいたり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいたり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。
衣服についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。
器具についたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

- 液晶ディスプレイの画面をたたいたり、衝撃を加えたりしない



禁止

ガラスが割れて、けがの原因となることがあります。

もしも、ガラスが割れて液晶(液体)がもれたときは、液晶に触れないでください。

もれた液が目にはいたり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいたり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。
衣服などについたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。
床や周囲の家具、機器などについたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

お手入れについて

- お手入れのときは、電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜け

感電の原因となることがあります。

- 1年に一度は内部の清掃を、お買い上げの販売店にご相談ください

本体の内部にほこりがたまったまま使用すると、火災や故障の原因となることがあります。

特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと効果的です。内部清掃費用については、お買い上げの販売店にご相談ください。

～最初に必ずお読みください～

使用上のお願いとご注意

取扱いについて

- 本機をご使用中、製品本体で熱くなる部分がありますので、ご注意ください。
- 移転など、遠くへ運ぶときは、傷がつかないように毛布などでくるんでください。また、衝撃・振動を与えないでください。
- 本機に殺虫剤など、揮発性のものをかけないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 本機から「ジー」という液晶パネルの駆動音が聞こえる場合がありますが、故障ではありません。

本機を廃棄、または他の人に譲渡するとき

- 本機を譲渡する場合、全ての情報を初期化することをお勧めします。
- 本機を破棄する場合、地域や地方自治体などの規則に従って、定められた場所に出してください。

商標に関する情報

- Windows はMicrosoft Corporation LLC の米国およびその他の国における登録商標です。
- VESA、DisplayPort および DisplayPort アイコンはVideo Electronics Standards Association の米国またはその他の国における商標または登録商標です。
- Intel はIntel Corporation の米国およびその他の国における商標です。
- HDMI、HDMI ロゴ、High-Definition Multimedia Interface はHDMI Licensing の商標または登録商標です。

免責事項について

- 地震・雷などの自然災害、火災、第三者による行為、その他の事故、使用者の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用によって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品の使用または使用不能から生じる付随的な損害(事業利益の損害、事業の中断、視聴料金の損失など)に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことによって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 誤操作や、静電気などのノイズによって本機に記憶されたデータなどが変化・消失することがあります。これらの場合について、当社は一切の責任を負いません。

この装置は、クラスA情報技術装置です。
この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。
この場合には、使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

目次

第1章	はじめに	7
	主な機能	7
	付属品	9
	各部の名称および機能	10
	ボタン・スイッチ・表示	10
	コネクタ・端子	11
	リモコン	12
	リモコンの使い方	13
第2章	設置	14
	設置の準備をする	14
	設置する場所を決める	14
	通気の必要性について	14
	壁掛け・吊り下げ設置について	15
	壁用スペーサーを使う	16
	縦置きまたは画面を上向きに設置する	17
	液晶ディスプレイからベゼルを取りはずして使用する	18
	外付けスピーカーを取り付ける	19
	接続方法	20
	配線図	20
	HDMIケーブルがはずれないようにするために	21
	コンピュータを接続する（アナログ接続）	22
	コンピュータを接続する（デジタル接続）	23
	映像機器を接続する（コンポーネントビデオ/HDMI機器）	24
	映像機器を接続する（コンポジットビデオ/S-ビデオ機器/ステレオアンプ）	25
	拡張モジュールを装着する	26
	拡張モジュールの装着	26
	OPS準拠モジュールを装着する	27
	RS-232Cを接続する	28
	RS-232C経由で液晶ディスプレイを操作する	28
	LANに接続する	29
	LANでネットワークに接続する	29
	USB機器を接続する	30
	USBハブを使って複数のUSB機器を接続する	30
	電源コードを接続する	31
	電源に接続する	31
第3章	操作方法	32
	すべての接続機器の電源を入れる	32
	液晶ディスプレイの電源を入れる	32
	省電力機能	33
	ビデオ入力を選ぶ	34
	接続機器を操作する	35
	表示言語を選択する	35
	オートセットアップ（アナログ入力のみ）	36
	映像設定モードを選ぶ	37
	画面設定	37
	映像設定	38
	スピーカーの設定	38
	音量、バランス、トーンの調節	38
	スケジュール設定	39

スケジュール設定の方法.....	40
リモートコントロール.....	41
RS-232Cによるリモートコントロール.....	41
LANによるリモートコントロール.....	43
USBハブの設定.....	44
OSD画面の構成と基本操作.....	45
OSD画面の構成.....	45
OSD画面の基本操作.....	46
<映像設定>.....	47
<画面設定>.....	50
<オーディオ設定>.....	52
<子画面設定>（ピクチャーインピクチャー）.....	53
<詳細設定1>.....	54
<詳細設定2>.....	56
<アドバンストオプション>.....	58
第4章 その他の機能.....	61
映像サイズ.....	61
映像モード.....	61
操作ロックモード.....	62
OSDメニューについて.....	62
音声入力の切り換え.....	63
オートブライトネス機能についての補足情報.....	63
子画面設定.....	64
リモートコントロール 番号割り当て機能.....	65
第5章 故障かな？と思ったら.....	66
付録A 仕様.....	68
付録B ピンアサイン.....	71

第1章

はじめに

主な機能

産業用LEDバックライト搭載

- ❖ LEDバックライトパネル—LEDバックライトを搭載した産業用グレードのパネルです。LEDバックライトを搭載することで、低電力消費化と水銀の不使用を実現しました。スリムなデザインで、従来の液晶ディスプレイ以上にさまざまな場所に設置可能です。68ページをご覧ください。

幅広いコンテンツやメッセージをくっきりと伝える高品質の液晶パネル

- ❖ フルHDパネル—TD-Z421/TD-Z471はフルHD（1920×1080）解像度で、ビデオやコンピュータ信号を高精細で鮮やかに再現します。69ページをご覧ください。

幅広いビジネスユースに対応した高機能ディスプレイ/さまざまな用途をサポートするシステム構成

- ❖ 複数台のパネルを一枚につなぎ合わせ、フレーム補間も行います—最大25台のパネルをつなぎ合わせ（横5台×縦5台）、一枚の大画面や（壁一面に映像を映し出すなど）、印象的なデジタルサイネージをつくりだすことができます。フレーム補間機能を搭載し、映像が最大限正確に表示されるようにパネルのベゼル幅を補間します。59～60ページをご覧ください。
- ❖ ピクチャーインピクチャー/ピクチャーアウトピクチャー/ピクチャーサイドピクチャー—ビデオ入力の映像コンテンツを子画面に表示し、コンピュータ入力の映像をメイン画面に表示、またはその逆の操作をしたいときは、ピクチャーインピクチャー（PIP）、ピクチャーアウトピクチャー（POP）機能が使えます。ピクチャーサイドピクチャー機能では、最大解像度は1920×1080の高さで、2種類の映像信号を表示することができ、放送やビデオコンファレンス向けに最適です。12、53および64ページをご覧ください。
- ❖ デジタル・ズーム・ズームモードではアスペクト比4：3の映像を16：9に拡大できます。さまざまなズームモードがあり、アスペクト比4：3の映像を16：9に拡大することができます。また、ダイナミックディスプレイモードでは、画面の中心や端で、さまざまなズーム倍率を選択して映像を自然に引き伸ばすことができます。また対角線、水平また垂直方向に最適なサイズに変更することも可能です。50～51ページをご覧ください。

拡張スロットにより用途に応じた拡張モジュールに対応

- ❖ オプションスロット—推奨拡張モジュールの装着が可能です。拡張モジュールにより、用途に応じて液晶ディスプレイの機能を拡張できます。26ページをご覧ください。

幅広いマネジメント機能により効率的な動作と管理をサポート

- ❖ スケジュールプログラム機能—最大7件の動作スケジュールを、時間・曜日・入力ポートを指定してプログラムできます。この機能により、異なる入力ポートからの映像コンテンツを同時に設置されている中の特定の液晶ディスプレイに、スケジュールに従って表示させることができます。また、使用していない時間・曜日には表示をさせないことで、液晶ディスプレイ寿命を延ばし、節電にもつながります。39～40ページをご覧ください。
- ❖ スクリーンセーバー機能—使用時間の長い広告用途における映像の残像を防止し、パネル寿命を最大化するために、4つのスクリーンセーバー機能が搭載されています。54～55ページをご覧ください。

- ・ < GAMMA >
- ・ < COOLING FAN >
- ・ < BRIGHTNESS >
- ・ < MOTION >

- ❖ パワーオンディレイ - 複数の液晶ディスプレイを設置している場合、パワーオンディレイ機能により、電源を入れた後、2~50秒間隔で順番に液晶ディスプレイを立ち上げることができます。この機能により、電源を入れたときの突入電流を防止でき、全体的な電力負荷を減らすことができます。60ページをご覧ください。
- ❖ LANによるコントロール - LANネットワークを通してコンピュータの制御コマンドを送信することで、効率的、集中的に複数の液晶ディスプレイの再構成および遠隔診断ができます。

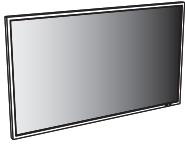
照度センサーによる明るさ補正で視認性向上や低消費電力化 10および63ページをご覧ください

- ❖ 照度センサー（明るさセンサー） - 視認性向上と低消費電力化のために、画面の明るさを自動調整します。液晶ディスプレイの前面および背面に搭載された照度センサーが液晶ディスプレイの前だけでなく後ろ側の明るさも検出し、映像の明るさを最適な状態に自動調整します。日中と夜間の明るさの違いにも関わらず、画面は常に見やすく調整されます。

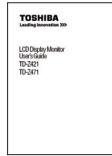
その他

- ❖ DisplayPort - DisplayPort適合の端子を装備しています。デジタルインターフェースの規格であるDisplayPortをサポートしている端子が装備されています。最長15mのケーブルで映像信号を伝送できます。11および23ページをご覧ください。
- ❖ 内蔵スピーカー - 音声データ用にステレオスピーカーが内蔵されています。外付けスピーカーもお使いいただけます。外付けスピーカーと内蔵スピーカーを、メニュー選択で切り換えることも可能です。10および38ページをご覧ください。
- ❖ リモコン - 電源「入」、「切」や入力選択、メニューなどさまざまな機能をコントロールするワイヤレスリモコンが付属しています。12および13ページをご覧ください
- ❖ 字幕 - 字幕表示ができます。映像信号に字幕がエンコードされている場合、画面に字幕を表示させるか非表示にするかを選択できます。本機はEIA-608-Aに適合しています。60ページをご覧ください。
- ❖ USBハブ - 複数のUSBデバイスを接続できます。2つの電源内蔵ダウンストリームポートを装備したUSBハブを搭載しており、USBデバイスを接続できます。デジタルカメラやタッチパネルなどを本機に取り付けるときに便利です。44ページをご覧ください。
- ❖ 倍速クリアピクチャー（CPモード） - 59ページ - 本来の60フレーム/秒の映像から動きを予測して新しいフレームを作り出し、120フレーム/秒の映像に補間します。残像感が低減され、動きの早い映像をスムーズに表示します。この機能を使うと、スクロールするテッカーなどの動くものが見やすくなり、情報を短時間で伝えるデジタルサイネージ向けなどに効果的です。
- ❖ デイジーチェーン接続（DVI-D） - DVI-D出力端子とDVI-D入力端子をDVI-Dケーブル（市販品）で接続することで、最大4台の液晶ディスプレイに映像信号を伝送できます（2mのケーブルを使用）。この機能は映像信号を複数の液晶ディスプレイに伝送する場合に役立ちます。23ページをご覧ください。

同梱品



液晶ディスプレイ



取扱説明書



映像信号ケーブル
(ミニ D-SUB15 ピン
ミニ D-SUB15 ピン)



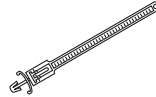
リモコンおよび単 4 形乾電池



クランパー
2 個 (落下防止用)



ねじ (M4)
2 個 (落下防止クランパー用)



クランパー
3 個 (ケーブル結束用)



クランパー
2 個 (HDMI ケーブル保持用)



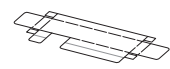
バンド
4 個 (HDMI ケーブル保持
クランパー用)



壁用スペーサー
9 個



ケーブルホルダー
(電源コード用)



保護カバー



UL 適合マークラベル



電源コード



オプションスロットカバー

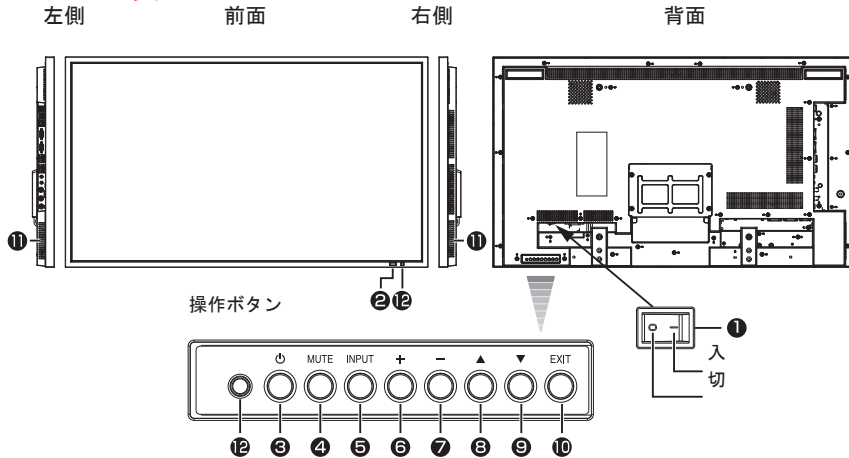


ロゴカバーラベル
(必要に応じてお使いください。)

電源コードは、付属のもの以外は使用しないでください。
本電源コードは、本製品以外に使用しないでください。

各部の名称および機能

ボタン・スイッチ・表示



1. 主電源スイッチ - 主電源を「入」、「切」にします。

注：リモコン、液晶ディスプレイ、コミュニケーション・コマンドの電源ボタンで電源を切った後、2秒以内に主電源を切ったり、電源コードを抜いたり、ブレーカーを落としたりしないでください。電源を切る操作の直後に交流電源が通電しなくなると、言語選択を含むすべてのOSD設定が、次に電源を入れたときに工場出荷設定値にリセットされてしまう場合があります。OSD設定が工場出荷設定値にリセットされた場合、以下の手順で再設定してください。

- ・リモコンなどを使って液晶ディスプレイの電源を切る
- ・2秒以上待つ
- ・リモコンなどを使って液晶ディスプレイの電源を入れる
- ・OSD設定を確認、再設定する

2. リモコン受光部、電源表示ランプ -

リモコン受光部：リモコンからの信号を受光します。
 電源表示ランプ：液晶ディスプレイの状態を表示します。

- ・緑色点灯：電源「入」
- ・赤色点灯：電源「切」。電源「入」などの操作は可能。
- ・緑色・赤色点灯：スリープモード
- ・オフ：主電源「切」
- ・赤色点灯・緑色点滅：予約待機モード
- ・赤色点滅：エラー発生（自己診断機能により検出）

3. 電源ボタン - 電源を「入」、「切」にします。

このボタンは電源表示ランプがオフのときは操作できません。主電源を入れてください。（32ページをご覧ください。）

4. < MUTE > ボタン - 消音機能を「入」、「切」にします。

5. < INPUT > ボタン - ビデオ入力を変更するために、OSDメニューを表示します。< [HDMI1] >、< [HDMI2] >、< [DVI-D] >、< [D-SUB] >、< [オプション]* >、< [DISPLAYPORT] >、< [YPbPr] >、< [S-VIDEO] >、< [VIDEO] >を、アップ（▲）/ダウン（▼）ボタンで選択できます。

<オプション>は、オプションスロットに拡張モジュールが搭載されているときに利用できます。

6. プラス（+）ボタン - OSDメニューで値を大きくするときに使います。OSDメニューがオフのときには、音声出力レベルを大きくします。

7. マイナス（-）ボタン - OSDメニューで値を小さくするときに使います。OSDメニューがオフのときには、音声出力レベルを小さくします。

8. アップ（▲）ボタン - OSDメニューで調整する項目を選ぶため、ハイライトされたエリアを上へ動かします。

9. ダウン（▼）ボタン - OSDメニューで調整する項目を選ぶために、ハイライトされたエリアを下へ動かします。

10. < EXIT > ボタン - OSDメニューがオフのときに、OSDメニューを有効にします。前のOSDメニューに戻るときの< EXIT > ボタンの役割をします。

11. スピーカー - 内蔵スピーカーから音声が出力されます。

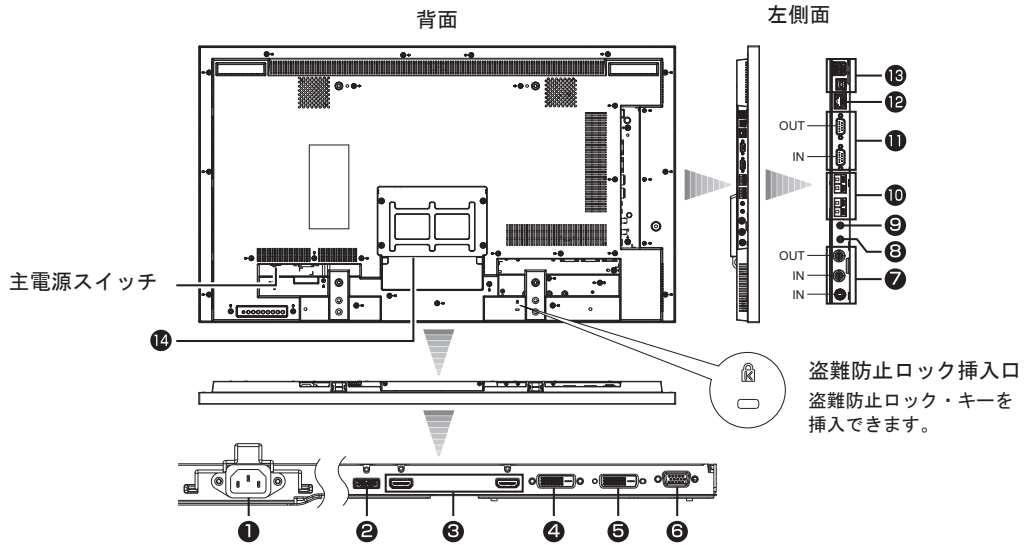
12. 照度センサー（前面・背面） - 明るさを自動調節するためのセンサーです。

（参照）操作ロックモード

操作ボタンをロックできます。62ページをご覧ください。

注：ボタンを使ったOSDメニューの詳しい操作方法は、46ページの「OSD画面の基本操作」をご覧ください。

コネクタ・端子

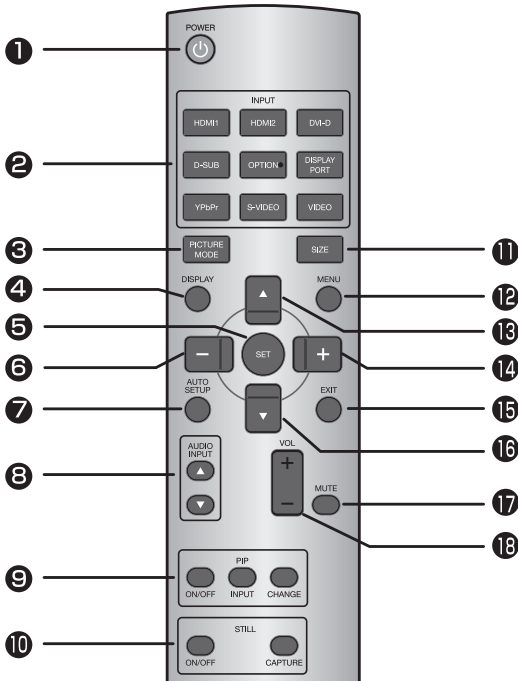


- 1 電源入力端子 (3 ピン、アース端子付 with earth terminal)-付属の電源コードを接続します。デジタルカメラやタッチパネルなどの周辺機器を接続します。
- 2 < DISPLAYPORT IN >-コンピュータのデジタルビデオ出力端子などを接続します。
- 3 < HDMI1 IN, HDMI2 IN >-コンピュータ、DVD プレーヤーなどのデジタルビデオ出力端子を接続します。
- 4 < DVI-D IN >-コンピュータなどのデジタルビデオ出力端子を接続します。
- 5 < DVI-D OUT >- DVI-D IN コネクタ (5) に送られる信号を出力します。
- 6 < D-SUB/YPbPr IN >-コンピュータのアナログビデオ出力端子や DVD プレーヤーなどのコンポーネント映像端子を接続します。
- 7 < VIDEO IN/OUT > (S 端子 /BNC)-ビデオ機器を接続します。
< S-VIDEO IN > : S ビデオ入力端子 (MINI DIN 4 ピン)
< VIDEO IN > : BNC 端子
< VIDEO OUT > : BNC 端子
- 8 < AUDIO ANALOG IN >-コンピュータ、VCR、DVD プレーヤーなどの外部機器の音声出力端子を接続します。
- 9 < AUDIO ANALOG OUT >-< AUDIO ANALOG IN >端子 (11) に送られた信号を出力します。外付けオーディオアンプなどを接続します。
注 : ヘッドフォンやイヤホンはサポートされません。
- 10 < EXTERNAL SPEAKER TERMINAL >-外付けのステレオスピーカーを接続します。
- 11 RS-232C コネクタ (D-SUB 9 ピン)-
入力コネクタ : コンピュータやその他 (MODEL) の RS-232C 出力端子を接続します。
出力コネクタ : コンピュータやその他 (MODEL) の RS-232C 入力用端子を接続します。
- 12 LAN 端子-LAN ケーブルを接続します。
- 13 USB ハブ
USB アップストリームポート (タイプ B) : 1
外部コンピュータを接続します。
USB ダウンストリームポート (タイプ A) : 2
- 14 オプションスロット-このスロットに拡張モジュールを挿入します。(オプション、市販品)

注意 :

互換性のないデバイスを搭載すると、製品が破損したり、本機が正常に動作しなくなる場合があります。26 ページをご覧ください。
OPS 準拠モジュール (市販品) を装着する場合は、冷却ファンを作動させてください。

リモコン



- 1 電源ボタン-電源を「入」、「切」にします。
電源表示ランプが点灯していないときは操作できません。
- 2 < INPUT > ボタン-< [HDMI1] >、< [HDMI2] >、< [DVI-D] >、< [D-SUB] >、< [オプション]* >、< [DISPLAYPORT] >、< [YPbPr] >、< [S-VIDEO] >、< [VIDEO] >から入力信号を選択します。< オプション >は、オプションスロットに拡張モジュールが搭載されているときに利用できます。
- 3 < PICTURE MODE > ボタン-ピクチャーモードを< [HIGHBRIGHT] >、< [STANDARD] >、< [sRGB] >、< [CINEMA] >から選びます。37 ページをご覧ください。
< HIGHBRIGHT >：最大値のブライトネス設定です。
< STANDARD >：工場出荷時の設定です。
< sRGB >：sRGB 対応機器の色合わせに適した設定です。
< CINEMA >：映画鑑賞に適した設定です。
- 4 < DISPLAY > ボタン-画面設定情報を表示します。62 ページをご覧ください。リモコン操作がロックされているときは、< DISPLAY > ボタンを 5 秒以上長押しすると標準設定に戻ります。(62 ページをご覧ください。)
- 5 < SET > ボタン-OSD メニューの設定を確定します。
- 6 マイナス (-) ボタン- OSD メニューで、調整値を小さくするときに使います。
子画面モードが「入」のとき、このボタンで子画面を左に動かします。
- 7 < AUTO SETUP > ボタン-オートセットアップ・メニューを表示します。36 および 54 ページをご覧ください。

- 8 < AUDIO INPUT > ボタン-ビデオ入力によって音声入力を選択します。

注：

このボタンはビデオ入力< HDMI1 >、< HDMI2 >、< オプション > (OPS 準拠モジュール)、< DISPLAYPORT > のときにのみ操作できます。63 ページをご覧ください。

- 9 < PIP > (子画面設定) ボタン-
< ON/OFF > ボタン: PIP または POP モードの「入」、「切」を切り換えます。
< INPUT > ボタン: 子画面に表示される映像を選択します。
< CHANGE > ボタン: メイン画面と子画面を切り換えます。

[ご説明]

< 子画面設定 >：ピクチャーインピクチャー
子画面がメイン画面の中に表示されます。

< POP >：ピクチャーアウトサイドピクチャー
子画面がメイン画面の右下に表示されます。

< SBS >：サイドバイサイド

メイン画面と子画面が並んで表示されます。

注：画面サイズが< [CUSTOM] >または< [REAL] >のときは、PIP/POP モードは機能しません。

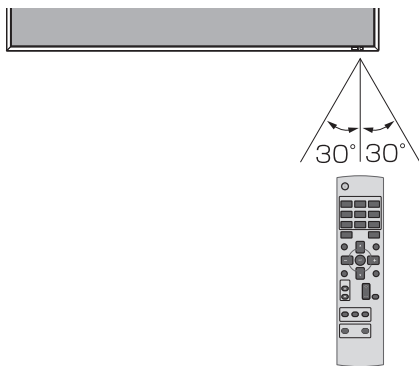
- 10 < STILL > ボタン-
< ON/OFF > ボタン: 静止画像モードの「入」、「切」を切り換えます。
< CAPTURE > ボタン: 新しい映像をキャプチャーします。
- 11 < SIZE > ボタン-映像サイズを< [FULL] >、< [NORMAL] >、< [CUSTOM] >、< [DYNAMIC] >、< [REAL] >から選びます。61 ページをご覧ください。
- 12 < MENU > ボタン-OSD メニューモードの「入」、「切」を切り換えます。
- 13 アップ (▲) ボタン- OSD メニューで調整する項目を選ぶため、ハイライトされたエリアを上へ動かします。子画面設定が有効なとき、このボタンで子画面を上へ動かします。
- 14 プラス (+) ボタン- OSD メニューで、調整値を大きくするときに使います。子画面設定が有効なとき、このボタンで子画面を右へ動かします。
- 15 < EXIT > ボタン-前の OSD メニューを表示します。
- 16 ダウン (▼) ボタン- OSD メニューで調整する項目を選ぶため、ハイライトされたエリアを下へ動かします。子画面設定が有効なとき、このボタンで子画面を下へ動かします。
- 17 < MUTE > ボタン-消音機能を「入」、「切」にします。
- 18 音量ボタン< (VOL) >-プラス (+) で音量を上げ、マイナス (-) で音量を下げます。

リモコンの使い方

リモコンの使用範囲について

ボタン操作をしながらリモコンを液晶ディスプレイのリモコン受光部に向けます。

液晶ディスプレイのリモコン受光部正面から7m以内の距離で、水平垂直角度30°以内、3.5m以内で使用します。



ご注意：

液晶ディスプレイのリモコン受光部に直射日光や強い照明が当たっているとき、またはリモコン受光部とリモコンの間に障害物があると、リモコンが動作しないことがあります。

リモコンの取扱い

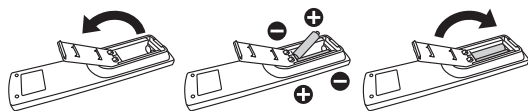
- * 強い衝撃を与えないでください。
- * 水などの液体がリモコンにかからないように注意してください。リモコンがぬれたときは、すぐにふきとってください。
- * 高温になる場所や湿度の高い場所に置かないでください。
- * 乾電池を入れるとき以外は、リモコンを開けないでください。

リモコンに乾電池を入れる、はずす

リモコンは単4型乾電池（1.5V）を使用します。

乾電池を入れる

- 1 ロックを外し、矢印の方向にカバーを開けます。
- 2 極性表示（+）と（-）の通り、ケースに乾電池を入れます。
- 3 カバーを閉めます。



乾電池をはずす

- 1 ロックをはずし、矢印の方向にカバーを開けます。
- 2 乾電池をはずします。

ご注意：

間違ったタイプの電池を使用すると破裂のおそれがあります。

使用済みの電池は、説明書に従って処分すること。

- ・「単4形乾電池」使用し、すべての乾電池の極性表示（+）（-）と、乾電池ケースの極性表示（+）（-）が適合するように入れてください。
- ・種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- ・新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。バッテリーの寿命が短くなり、液もれする原因になります。
- ・使い切った乾電池は、液もれた場合に、もれた液がバッテリーケースに付着しないように、すぐにはずしてください。皮膚に傷害を与えるおそれがありますので、もれた液をさわらないでください。

注：

- ・リモコンがまったく動作しなくなったり、操作できる距離が短くなったりしたら、すべての乾電池を新しい乾電池と交換してください。
- ・長期間リモコンを使用しないときは、乾電池を取りはずしてください。

第2章

設置

設置の準備をする

設置する場所を決める

ご注意：

ご自分で設置しないでください。

液晶ディスプレイの設置は必ず販売店に依頼してください。

ご注意：

上下逆さまや画面を下にして設置した場合、正常な動作は保証できません。

重要：

パネルに傷がつかないように、液晶ディスプレイの下に梱包時に巻かれていた保護シートを置いてください。

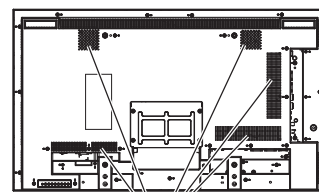
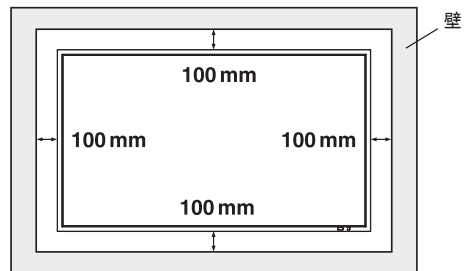
通気の必要性について

放熱のため、下の図のように液晶ディスプレイの周囲に空間を設けてください。

ご注意：

右の図で示した本体背面にある穴をふさがないでください。穴がふさがれると本体内部に熱がこもり、故障の原因になります。液晶ディスプレイが横向きに設置されている場合、動作保証される周辺温度の上限は40°Cです。ケースの中やキャビネットに設置する場合は、ケースに冷却ファンや通風孔を設けて空気が十分に流れるようにし、ケース内の温度が40°C以下になるようにしてください。液晶ディスプレイが縦向きまたは画面を上にして設置されている場合、周辺温度の上限は35°Cです。

本機には温度センサーと冷却ファンが装備されています。液晶が熱くなると、冷却ファンが自動的に作動します。液晶が過熱した場合、<Caution>メニューが表示されます。<Caution>メニューが表示されたときは、使用を中止し、温度を下がるのを待ってください。キャビネットに入れて使用している場合や、パネル表面にプロテクターを付けている場合は、<HEAT STATUS>機能で内部の温度を確認してください。（60ページをご覧ください。）温度が標準レベルよりも高い場合は、<スクリーンセーバー>機能を使って<COOLING FAN>を<オン>にしてください。（54ページをご覧ください。）OPS準拠モジュール（市販品）を装着しているときは、冷却ファンを使用してください。



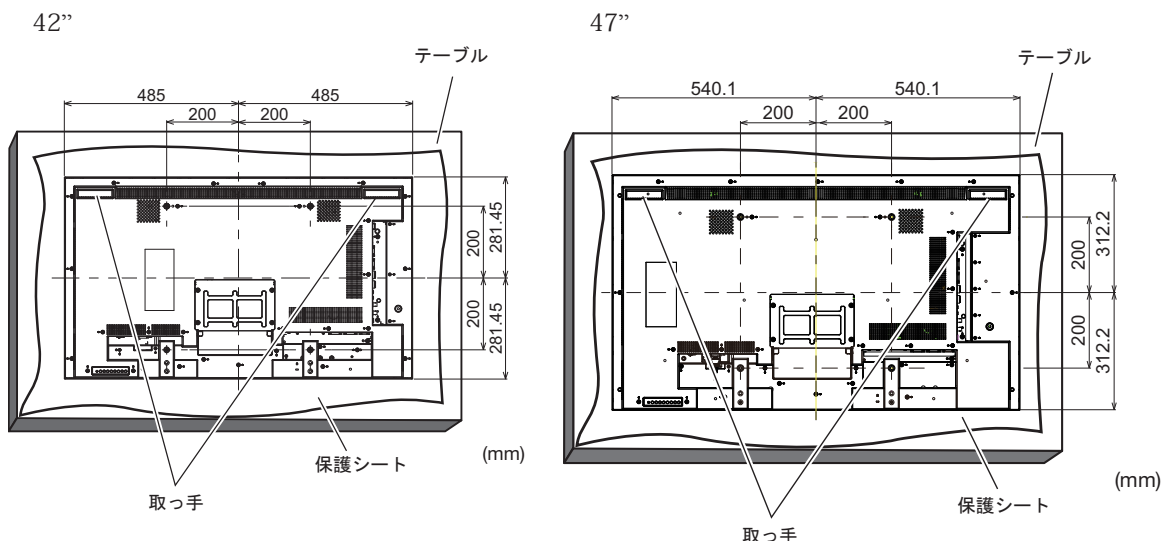
壁掛け・吊り下げ設置について

画面を下にして置く

パネルに傷がつかないように、液晶ディスプレイの下に梱包時に巻かれていた保護シートを置いてください。

本機はテーブルトップスタンドなどの据え置き器具がないと使用または設置できません。正しい方法で設置しないと、機器の破損やユーザーや設置する人がけがをする原因になることがあります。誤った方法で設置した場合、製品保証の対象になりません。推奨された方法に従わない場合、保証が無効になる可能性があります。

設置の際にはM6 鉄製ネジ（緩み止めワッシャー付、ブラケットの厚みより 10 mm 長いもの）を使用し、しっかりと固定します。



ご注意：

落下を防止するために：

- ・ 壁掛け設置や天井に吊り下げ設置する際は金属ブラケット（市販品）を使用し、設置してください。取り付け方法に関する詳細は、金属ブラケットの説明書をご覧ください。
- ・ 地震などの災害による落下でけがや損害を負う可能性を軽減するために、設置場所はブラケットのメーカーにご相談ください。
- ・ 落下の危険を軽減するため液晶ディスプレイの左右にある取っ手に市販のひもを通し、そのひもを壁または天井に取り付けたブラケットに固定してください。本機の6倍の重量に耐えられるひもを使用してください。（42インチは約90kg、47インチは約102kg）
- ・ 本機を保持できる十分な強度のあるネジ（鉄製など）を使用してください。

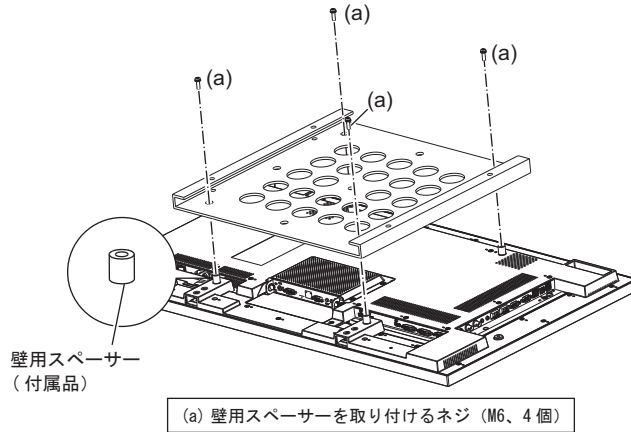
金属ブラケットについて：

- ・ VESA 規格に準拠した金属ブラケットをご使用ください。
- ・ 設置前に、設置面に十分な強度があるか確認してください。
- ・ 液晶ディスプレイを保持するのに十分な強度がある金属ブラケット（市販品）をご使用ください。
- ・ 安全確保のため、設置前に強度などの特性を確認してください。
- ・ 液晶ディスプレイの通風孔を金属ブラケットでふさがないでください。14 ページをご覧ください。
- ・ 取り付け方法および安全な取り付け方法に関する詳細は、ご使用になる金属ブラケット（市販品）の説明書をご覧ください。
- ・ 複数の金属ブラケットを使う、数カ所で保持する、問題が生じたときの落下防止策をとるなどの対策をしてください。

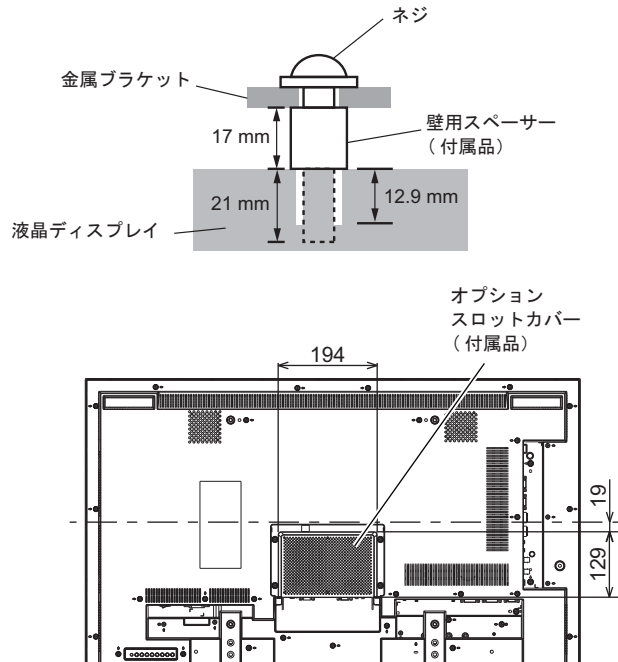
壁用スペーサーを使う

オプションのスロットカバーやスタンドのガイドフレームが、壁にふれたり、液晶ディスプレイ背面の通風孔をふさいでしまう場合は、壁用スペーサー（付属品）を使用して、金属ブラケット（市販品）を取り付けてください。

- 1 壁用スペーサー（4個）を金属ブラケットと液晶ディスプレイの壁取り付け用ネジ穴の間に置き、ネジ（a）で取り付けます。



設置の際には、M6 鉄製ネジ（緩み止めワッシャー付、金属ブラケットと壁用スペーサー（17 mm）厚さに合わせ、液晶ディスプレイに 21 mm 貫通する長さのもの）を使用し、しっかりと固定してください。



縦置きまたは画面を上向きに設置する

液晶ディスプレイを縦置きまたは画面を上向きに設置することができます。

本体が下図のような向きになっていることを確認してください。

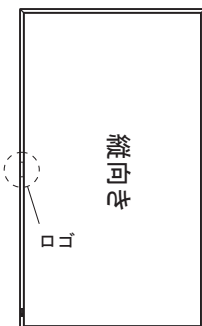
ご注意：

- ・ 縦置きまたは画面を上向きに設置する場合の使用環境条件（温度）は0° C～35° Cです。
- ・ 以下の図のように設置されていない場合は、正常な動作を保証しません。（逆さま、画面が下向きなど）
- ・ OPS 準拠モジュール（市販品）を装着しているときは、OSD 画面調整の<詳細設定1>メニューにある<スクリーンセーバー>で<COOLING FAN>を<オン>にしてください。<AUTO>に設定されている場合、<オン>の場合より、コンピュータの寿命が短くなったり、問題が起きたりします。
- ・ 縦置きまたは画面を上にして設置している場合、バックライトの寿命は横置きよりも短くなります。
- ・ 画面を上向きに設置しているときは、必ず OSD 画面調整の<CONFIGURATION1>メニューにある<スクリーンセーバー>で<COOLING FAN>を<オン>にしてください。

縦置きの設置方法

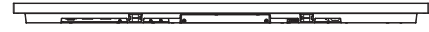
正面から本機を見たとき、ロゴが左になるように設置します。

注：本機には表示された映像を回転する機能はありません。縦向きに映像を表示させるには、すでに回転している映像をご利用ください。

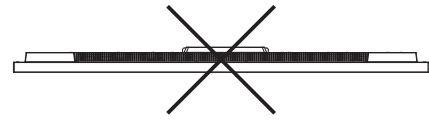


画面を上向きに設置する方法

画面が上向き



画面が下向き



縦置きまたは画面を上向きに設置する場合の使用環境条件

縦置きまたは画面を上向きに設置するときは、下記の条件を満たす必要があります。

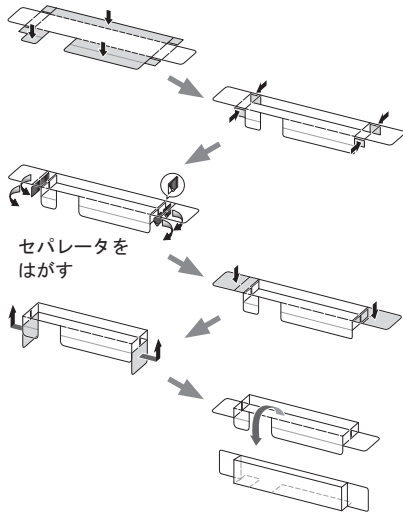
温度	0～35°C / 32～95°F
湿度	20～80%（結露なし）

液晶ディスプレイからベゼルを取りはずして使用する

ご注意：

- ・ (Model) 本機はベゼルを取り付けている限りにおいて、UL 規格に適合しています。ベゼルを取り外して使用する場合は UL 規格に適合しなくなりますので、付属のラベルをパネル背面の UL マークに貼ってください。
- ・ 回路基板を静電気による損傷から守るため、液晶パネルに保護カバーを取り付けてください。

1 下記の手順で付属の保護カバーを組み立てます。

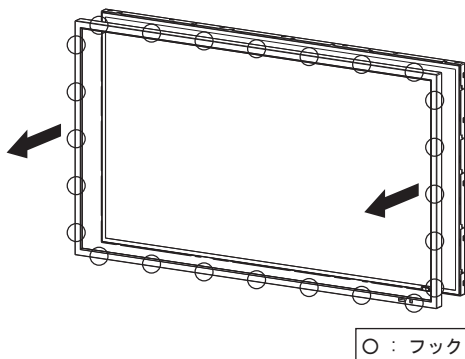


2 ディスプレイを正面に向けます。ベゼル隙間に手をかけ、隙間を広げるようにして内側のフックを外し、フロントベゼルを取り外します。

ご注意：

1. 指の爪でベゼルを取り外すことはしないでください。
爪を傷める可能性があります
2. ベゼルを無理やり曲げてフックを壊すことが無いよう、フックの外れる音や感触を確認してベゼルを取り外してください。

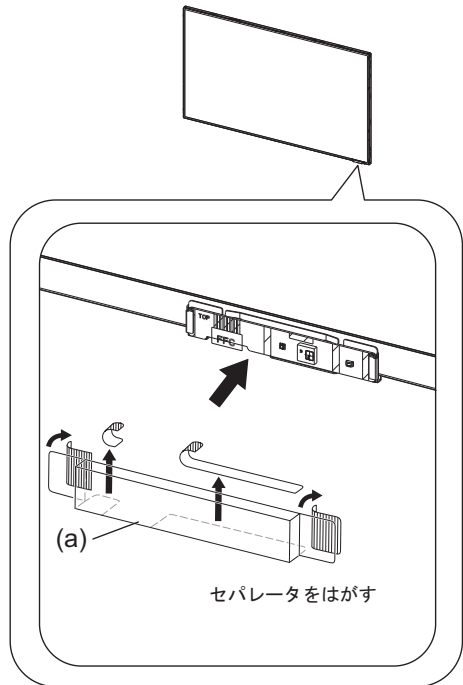
作業は販売店に依頼してください。



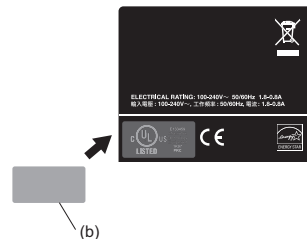
3 手順1で組み立てた保護カバー (a) からセパレータをはがし、液晶パネルに取り付けます。

ご注意：

破損のおそれがありますので、回路基板には絶対に触れないでください。



4 付属のラベル (b) をパネル背面の UL マークに貼ってください。



外付けスピーカーを取り付ける

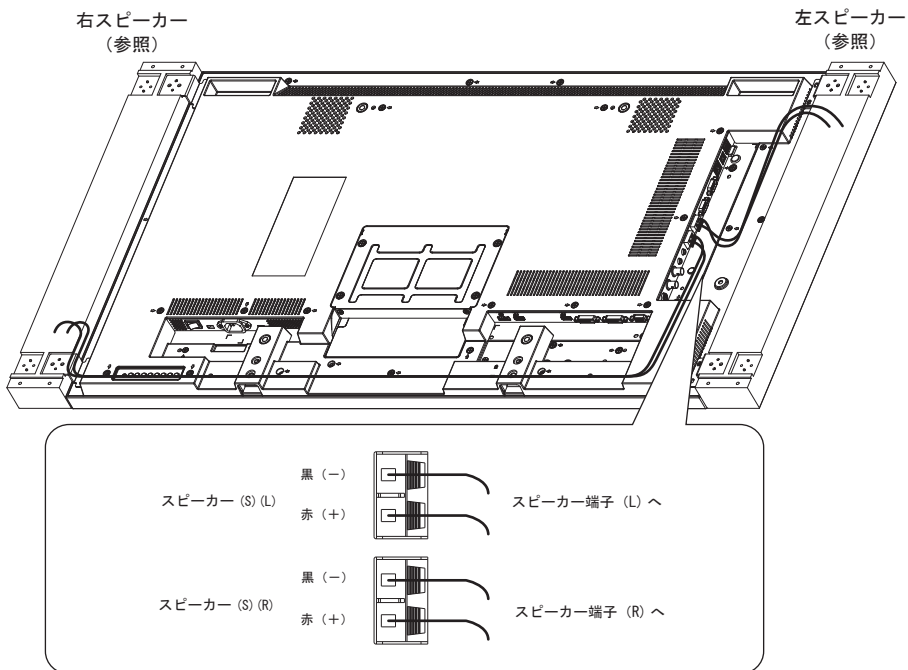
外付けスピーカーの取り付け方法

- 1 外付けスピーカーを液晶ディスプレイに取り付けます。推奨仕様はインピーダンス 8 Ω、出力 10W + 10W(ステレオ) (69 ページをご覧ください)。
外付けスピーカー付属の金具・ネジを使用してください。
詳しい設置方法は外付けスピーカーの取扱説明書をご覧ください。
- 2 左側のスピーカーケーブルを本体の < SPEAKER (S) (L) > に差し込み、右側のスピーカーケーブルを < SPEAKER (S) (R) > に差し込みます。

ご注意：

スピーカーケーブルの極性を端子の極性に合わせてください (+ (赤) / - (黒))。

極性が合わないと、音声出力に問題が生じる可能性があります。



(Sample Illustration) 42”

モニターの電源を入れた後、内蔵スピーカー・モードを外部スピーカー・モードに切り替えてください。
詳細は、「スピーカーの設定」のページ (38 ページ) を参照してください。

ご注意：

本機を動かすときにスピーカーを持たないでください。液晶ディスプレイとスピーカーが破損して、本機が落下した場合、けがをすることがあります。

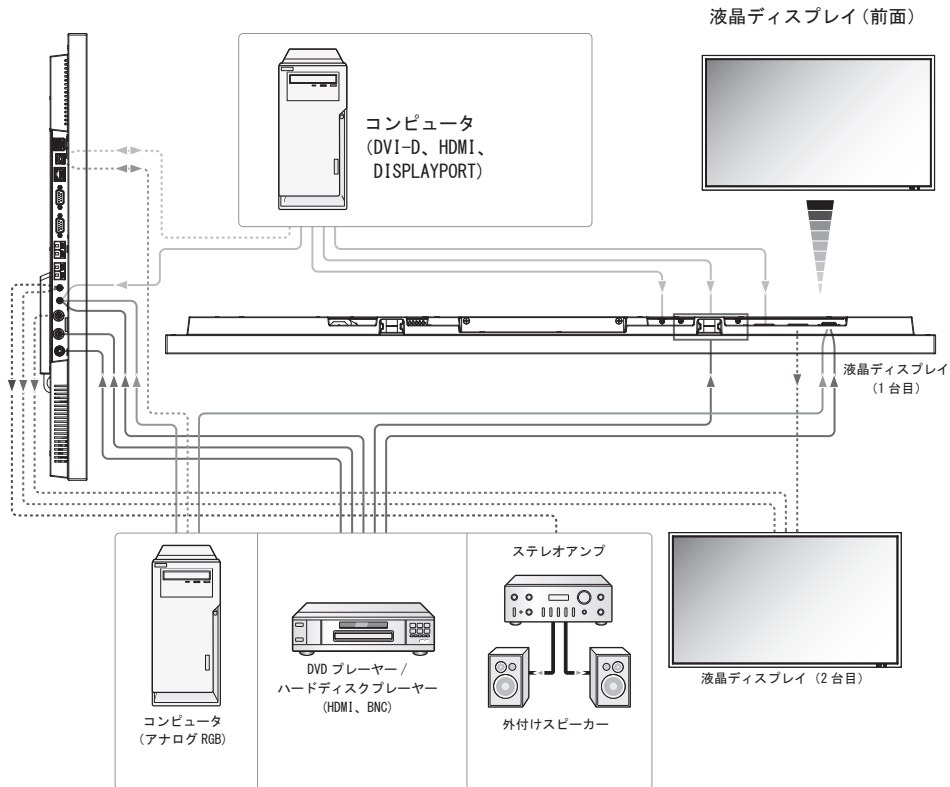
接続方法

接続を始める前に：

- ・ 接続を始める前に、すべての接続機器の電源を切ってください。
- ・ それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

注：オーディオ機器・コンピュータの音声出力端子がステレオミニジャックの場合、抵抗なしの音声ケーブルを使用してください。抵抗入りの音声ケーブルを使うと、音量に影響がでたり、音が出ないことがあります。

配線図



(Sample Illustration) 42”

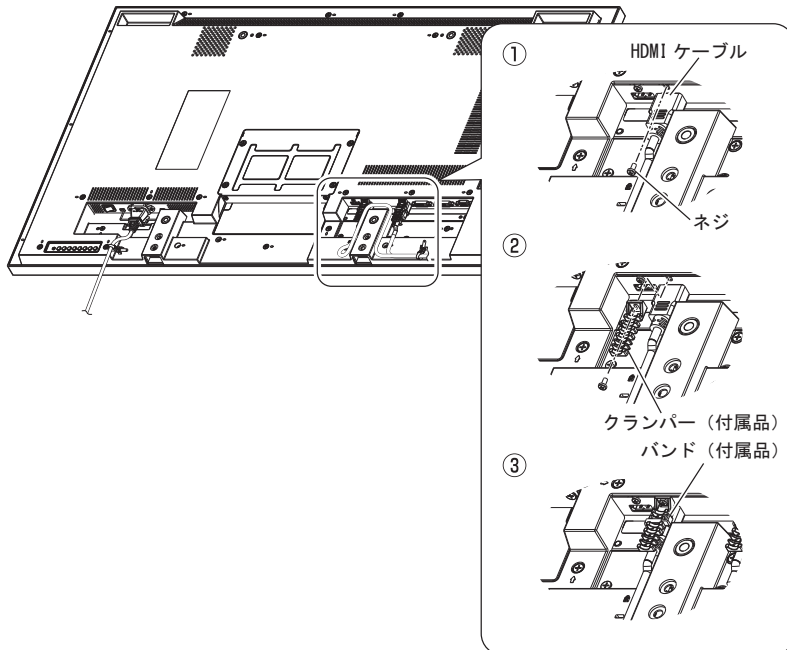
HDMIケーブルがはずれないようにするために

HDMI ケーブルを液晶ディスプレイの端子に接続する際は、不用意にはずれないように付属のクランパーで固定することをおすすめします。

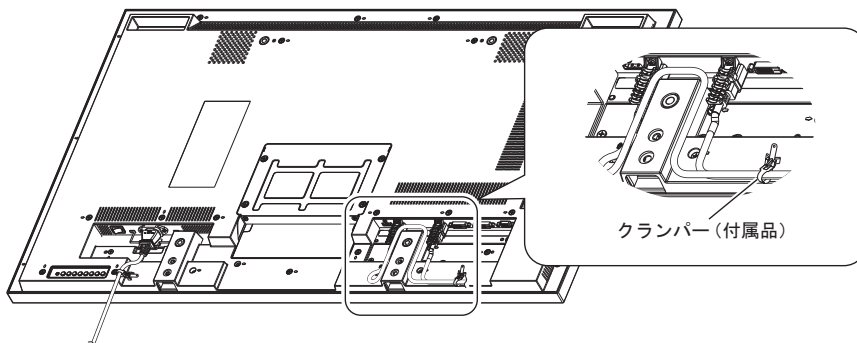
- 1 HDMI ケーブルを液晶ディスプレイの端子に接続します。
- 2 HDMI ケーブルをクランパー（付属品）とバンド（付属品）で固定します。
 - 1) 液晶ディスプレイのネジをはずします。
 - 2) クランパーを手順1 で外したネジで取り付けます。
 - 3) HDMI ケーブルとクランパーをバンドで固定します。

注：バンドは再利用できません。予備のバンドが2個付属しています。

バンドを取り換える際は、現在お使いのバンドを切っはらずし、同じ形状の新しいバンドを取り付けてください。（市販、幅 2.5 mm、長さ 約 100 mm）



- 3 HDMI ケーブルをクランパー（付属品）で固定します。



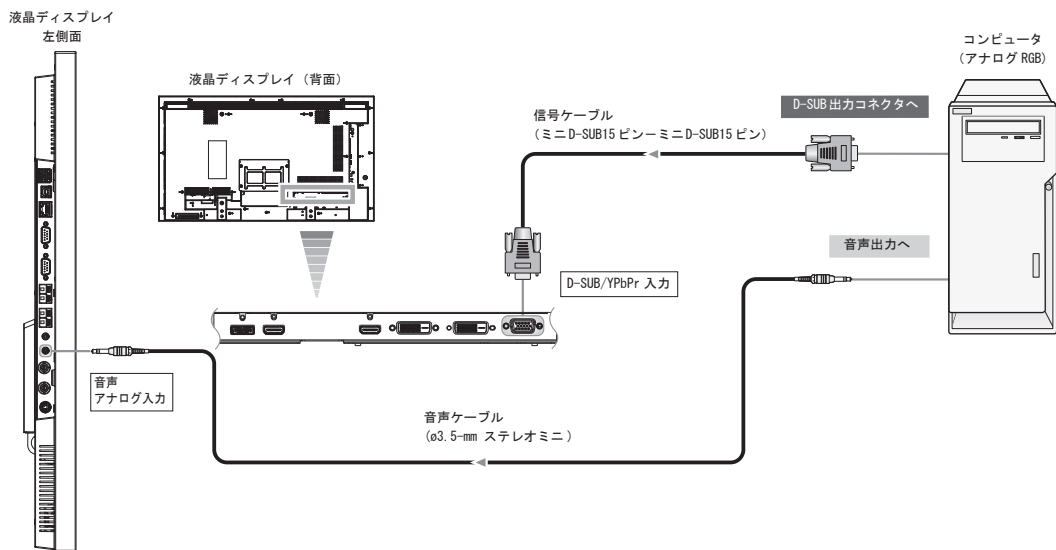
コンピュータを接続する（アナログ接続）

アナログ接続：

- 1) 信号ケーブル(ミニ D-SUB15 ピンーミニ D-SUB15 ピン) (付属品)を< D-SUB > / < YPbPr IN >コネクタに接続します。
- 2) モニターの< INPUT >ボタンで< [D-SUB] >を選択するか、リモコンで< D-SUB >ボタンを選択します。音声は自動的に< [ANALOG] >に切り換わります。

音声接続：

- ・ 音声ケーブル (ø3.5-mm ステレオミニ) (市販)を< AUDIO ANALOG IN >端子に接続します。音声は< [D-SUB] >を選択すると自動的に< [ANALOG] >に切り換わるので、ケーブルを接続するだけで音声が出力されます。



液晶ディスプレイが自動的に下の表にあるタイミングを識別し、画面情報を設定します。コンピュータなどの機器が接続されると、自動的に適切な映像が表示されます。<オートセットアップ>/<オートアジャスト>を54ページをご覧ください。

<工場出荷設定のタイミング>

	解像度	周波数		備考	解像度	周波数		備考	
		水平	垂直			水平	垂直		
1	640 x 480	31.5 kHz	60 Hz		9	1280 x 1024	64.0 kHz	60 Hz	
2	800 x 600	37.9 kHz	60 Hz		10	1400 x 1050	65.3 kHz	60 Hz	
3	1024 x 768	48.4 kHz	60 Hz		11	1680 x 1050	64.7 kHz	60 Hz	
4	1280 x 720	45.0 kHz	60 Hz		12	1600 x 1200	75.0 kHz	60 Hz	
5	1280 x 768	47.8 kHz	60 Hz		13	1920 x 1080	56.2 kHz	50 Hz	
6	1280 x 800	49.7 kHz	60 Hz		14	1920 x 1080	67.5 kHz	60 Hz	推奨タイミング
7	1360 x 768	47.7 kHz	60 Hz		15	1920 x 1200	74.0 kHz	60 Hz	CVT ブランキング低減
8	1440 x 900	55.9 kHz	60 Hz						

注：入力信号が1920 × 1080以外の場合、映像がぼやけたり、ゆがんだりすることがあります。お使いのビデオカードやドライバーによっては、映像が表示されないことがあります。

コンピュータを接続する (デジタル接続)

デジタル接続：

- ・ < HDMI IN >コネクタに接続する
 - (1) HDMI ケーブル (市販品) を< HDMI1 IN >または< HDMI2 IN >コネクタに接続します。
 - (2) 接続した端子に応じて、液晶ディスプレイの< INPUT >ボタンを押して< [HDMI1] >または< [HDMI2] >を選択するか、リモコンの< HDMI1 >または< HDMI2 >ボタンを選択します。
- ・ < DVI-D IN >コネクタに接続する
 - (1) DVI-D ケーブル (市販品) を< DVI-D IN >コネクタに接続します。
 - (2) 液晶ディスプレイの< INPUT >ボタンから< DVI-D >を選択するか、リモコンの< DVI-D >ボタンを選択します。
- ・ < DISPLAYPORT IN >コネクタに接続する
 - (1) DisplayPort ケーブル (市販品) を< DISPLAYPORT IN >コネクタに接続します。
 - (2) 液晶ディスプレイの< INPUT >ボタンから< DISPLAYPORT >を選択するか、リモコンの< DISPLAYPORT >ボタンを選択します。

2台目の液晶ディスプレイを接続する

- ・ 1台目の< DVI-D OUT >コネクタと2台目の< DVI-D IN >コネクタをDVI-D ケーブル (市販品) で接続します。

注：

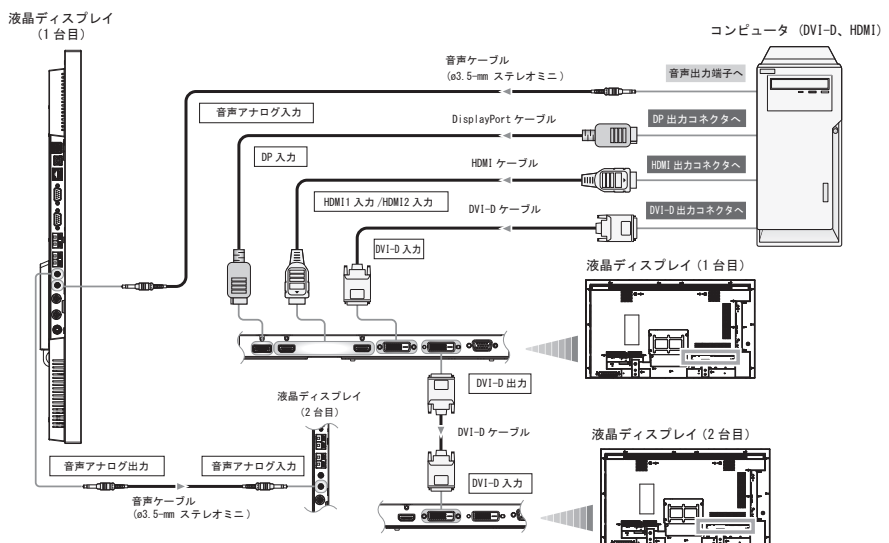
- ・ デイジーチェーン接続は本機を最大4台まで接続可能ですが (2 mのケーブルを使用した場合)、接続可能台数は制限される場合があります。お使いの設置環境で接続可能な台数をあらかじめ確認することをおすすめします。
- ・ デイジーチェーン接続モードで< DVI-D >を使う場合、< 詳細設定 1 >メニューにある< パワーセーブ >の< RGB >を< オフ >に設定してください。

音声接続：

- ・ 音声ケーブル (φ3.5-mm ステレオミニ) (市販品) を< AUDIO ANALOG IN > 端子に接続します。HDMI ケーブルを接続しているときは、接続した端子に応じて、液晶ディスプレイの< INPUT >ボタンを押して< [HDMI1] >または< [HDMI2] >を選択するか、リモコンの< HDMI1 >または< HDMI2 >ボタンを選択します。ここでは< HDMI1 >、< HDMI2 >または < ANALOG >オーディオから選択できます。(ビデオ入力が< [HDMI1] >または< [HDMI2] >の場合のみ、< HDMI >オーディオを選択できます。選択した入力音声だけが出力され、HDMI が表示されます。) DVI-D ケーブルを接続しているときは、液晶ディスプレイの< INPUT >ボタンから< [DVI-D] >を選択するか、リモコンの< DVI-D >ボタンを選択します。音声は自動的に< [ANALOG] >に切り換わります。DisplayPort ケーブルを接続しているときは、液晶ディスプレイの< INPUT >ボタンから < [DISPLAYPORT] >を選択するか、リモコンの< DISPLAYPORT >ボタンを選択します。ここでは< DISPLAYPORT >または< ANALOG >オーディオが選択できます。
- ・ 2台目の液晶ディスプレイに音声出力したいときは、音声ケーブル (φ3.5-mm ステレオミニ) (市販品) で1台目の液晶ディスプレイの< AUDIO ANALOG OUT >端子と2台目の液晶ディスプレイの< AUDIO ANALOG IN >端子を接続します。1台目の本機で< HDMI >または< DISPLAYPORT >が選択されていても、選択された音声が< AUDIO ANALOG OUT > 端子から出力されます。

注：

- ・ HDMI ケーブルまたはDisplayPort ケーブルが接続されているときに音声入力を切り換える方法は、「音声入力を変更する」をご覧ください。」



映像機器を接続する (コンポーネントビデオ/HDMI機器)

本機は DVD プレーヤーなどのコンポーネント出力のある映像機器を接続できます。
詳細は接続機器の取扱説明書をご覧ください。(下図のケーブルは市販品です。)

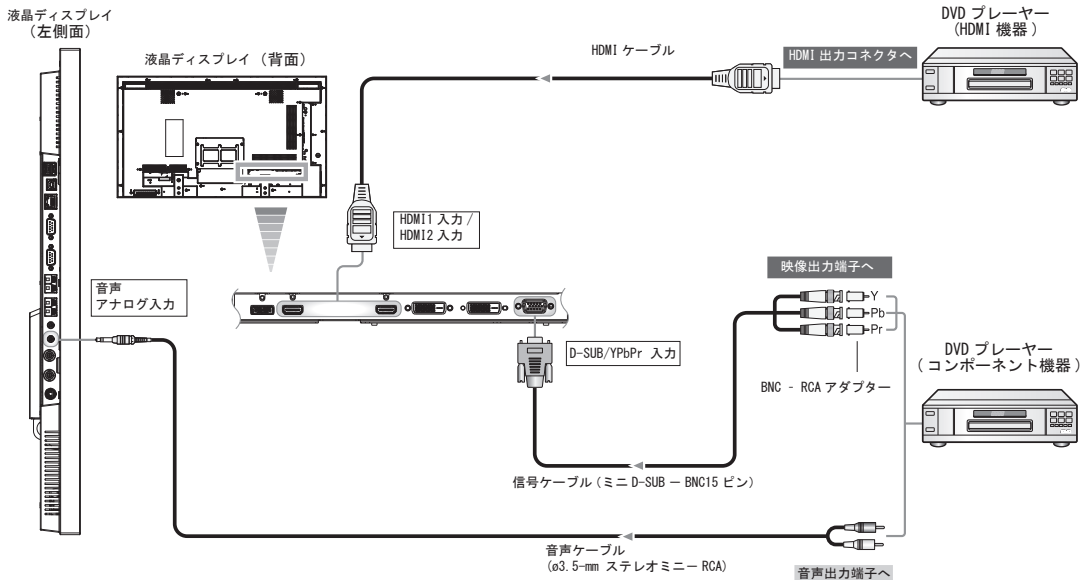
- コンポーネント出力のある DVD プレーヤーを本機の < D-SUB/YPbPr IN > コネクタに接続するときは、信号ケーブル (ミニ D-SUB15 ピン - BNC) と BNC - RCA アダプター (市販品) を使用します。

液晶ディスプレイの < INPUT > ボタンから < [YPbPr] > を選択するか、リモコンの < YPbPr > を選択します。音声出力が自動的に < [ANALOG] > に切り換わります。

- 音声ケーブル (φ3.5-mm ステレオミニ - RCA) を < AUDIO ANALOG IN > 端子に接続して、音声を接続します。 < [YPbPr] > が選択されているときは、音声は自動的に < [ANALOG] > に切り換わるので、ケーブルを接続するだけで音声が出力されます。
- HDMI 出力のある DVD プレーヤーを液晶ディスプレイの < HDMI1 IN > または < HDMI2 IN > コネクタに接続するときは、HDMI ケーブルを使います。

接続したコネクタに応じて、液晶ディスプレイの < INPUT > ボタンから < [HDMI1] > または < [HDMI2] > を選択するか、リモコンの < HDMI1 > または < HDMI2 > を選択します。

- HDMI ケーブルを接続しているときは、 < HDMI1 >、 < HDMI2 > または < ANALOG > オーディオを選択できます。(< HDMI > オーディオは、ビデオ入力 < [HDMI1] > または < [HDMI2] > のときのみ選択できます。)



(Sample Illustration) 42”

映像機器を接続する（コンポジットビデオ/S-ビデオ機器/ステレオアンプ）

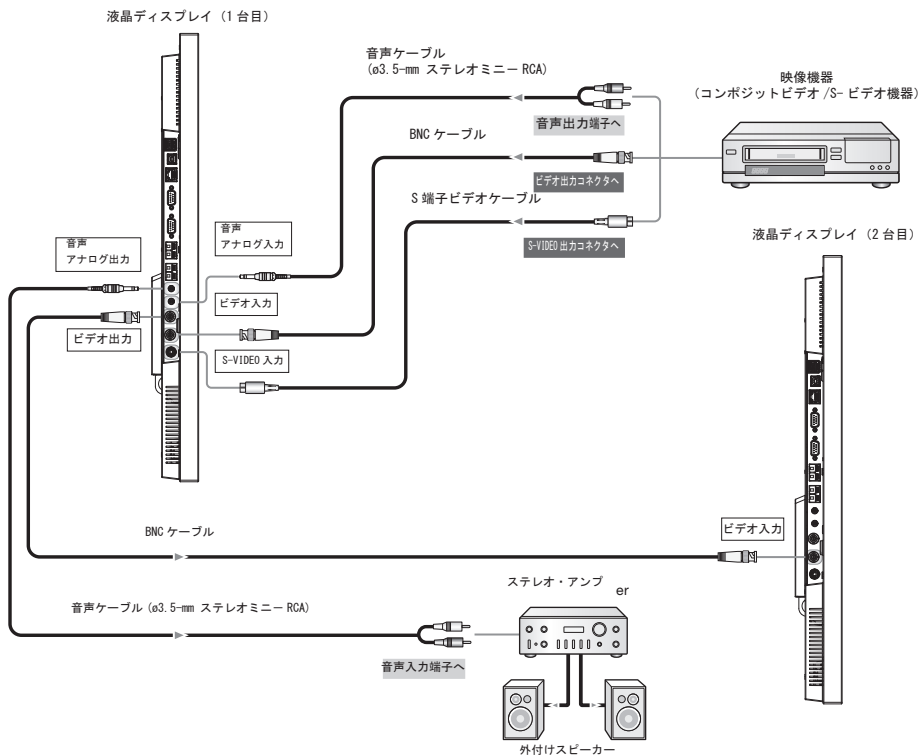
本機はコンポジットビデオ、S-ビデオ機器またはステレオアンプを接続できます。

詳細は接続機器の取扱説明書をご覧ください。（下図のケーブルは市販品です。）

- 映像機器を本体の< VIDEO IN >コネクタ（< VIDEO IN >または< S-VIDEO IN >）に接続するときは、BNC ケーブルまたはS 端子ビデオケーブルを使用します。液晶ディスプレイの音声入力端子に接続するときは、音声ケーブル（φ3.5-mm ステレオミニ - RCA）を使用します。音声ケーブル（RCA）の端子を間違えないように接続してください。< VIDEO IN >コネクタに接続するときは、本体の< INPUT >ボタンから< [VIDEO] >を選択するか、リモコンの< VIDEO >ボタンを選択します。< S-VIDEO IN >コネクタに接続するときは、液晶ディスプレイの< INPUT >ボタンから< [S-VIDEO] >を選択するか、リモコンの< S-VIDEO >ボタンを選択します。
- 2 台の液晶ディスプレイを接続するときは、BNC ケーブルの一方を 1 台目の液晶ディスプレイの< VIDEO OUT >コネクタに、もう一方を 2 台目の液晶ディスプレイの< VIDEO IN >コネクタに接続します。

注：

- デージーチェーン接続は本機を最大 5 台まで接続可能ですが（5 m のケーブルを使用した場合）、接続可能台数は接続機器により制限される場合があります。お使いの設置環境で接続可能な台数をあらかじめ確認することをおすすめします。
- デージーチェーンでアナログ信号が伝送される場合、デージーチェーン接続の末端にある機器では、ブライトネス、シャープネスなどの映像の質が低下します。
- 複数台の液晶ディスプレイを使用している場合などで、それぞれの色合いが同等になるよう調整する必要があるときは、信号分配器（市販品）の使用をおすすめします。
- ステレオアンプを液晶ディスプレイに接続するときは、ステレオアンプの電源が切れていることを確認してください。液晶ディスプレイの< AUDIO ANALOG OUT >端子に接続するときは、音声ケーブル（φ3.5-mm ステレオミニ - RCA）を使用します。音声ケーブル（RCA）の端子を間違えないように接続してください。最初に液晶ディスプレイの電源を入れてから、ステレオアンプの電源を入れてください。
- 選択した音声入力信号が< AUDIO ANALOG OUT >端子から出力されます。



(Sample Illustration) 42''

拡張モジュールを装着する

拡張モジュールの装着

拡張モジュールのオプションスロットへの装着は、モジュールの取扱説明書に記載の注意および手順に従ってください。サポートしている拡張モジュールには以下のようなものがあります：

- ・ OPS 準拠モジュール（市販品）
ご紹介コンピュータ（市販品）：① ADVANTECH 社製 ARK-DS262, ARK-DS220
② iBASE 社製 iOPS-76

注：

- ・ 互換性に関してはモジュールのメーカーにお問い合わせください。

[ご説明]

Intel® OPS (Open Pluggable 仕様) はインテル社策定の規格で、デジタルサイネージ向けに設計された液晶ディスプレイに搭載される交換可能なモジュールと液晶ディスプレイのインターフェースに関連しています。

サポート対象の OPS の機能

- ・ DVI-D
- ・ 電源コントロール
- ・ UART
- ・ USB
- ・ デジタルオーディオ
- ・ アナログオーディオ
- ・ DDC

注：拡張モジュールがオプションスロットに装着されているときは、〈詳細設定 1〉メニューの〈パワーセーブ〉が〈オン〉になっていても、スリープモードになりません。ビデオ入力を選択されているときでも、スリープモードにはなりません。33 ページをご覧ください。

OPS 準拠モジュールを装着する

すべての OPS 準拠モジュールの動作を保証するものではありません。

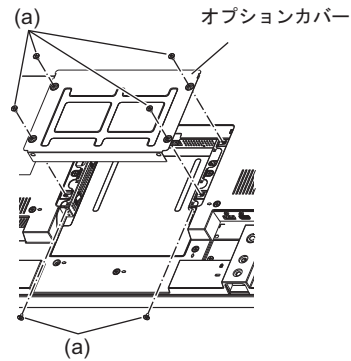
推奨コンピュータ（市販品）

Advantech Co., Ltd. 製 ARK-DS262, ARK-DS220

注：OPS 準拠モジュール（市販品）を装着する場合は、〈スクリーンセーバー〉機能から〈COOLING FAN〉を〈オン〉にしてください。54 ページをご覧ください。

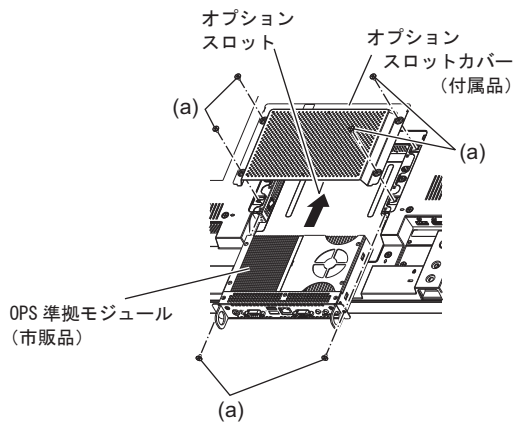
OPS準拠モジュールを装着する

- 1 液晶ディスプレイの主電源を切り、電源コードをはずします。
 ご注意：故障や感電を防止するため、電源コードがはずれていることを必ず確認してください。
- 2 6箇所（a）のネジをはずし（b）、オプションカバーをはずします。



ご注意：はずしたオプションカバーは保管してください。OPS準拠モジュールが装着されていないときは、元に場所に戻します。

- 3 オプションスロットカバー（付属品）を手順2ではずしたネジ4個（b）で装着します。
- 4 OPS準拠モジュール（市販品）をオプションスロットに挿入し、手順2ではずしたネジ2個（b）で固定します。



ご注意：オプションスロットカバー装着後、OPS準拠モジュールが適切な位置、向きにあるか確認し、スロットに完全に挿入してください。位置や向きが適切でないと、機器が破損することがあります。

OPS準拠モジュールをはずす

OPS準拠モジュールの取っ手を持って、はずします。

ご注意：OPS準拠モジュールを取り出すときは、取っ手以外は触れないでください。ケーブルの上にひっばることなどは破損の原因になります。

RS-232Cを接続する

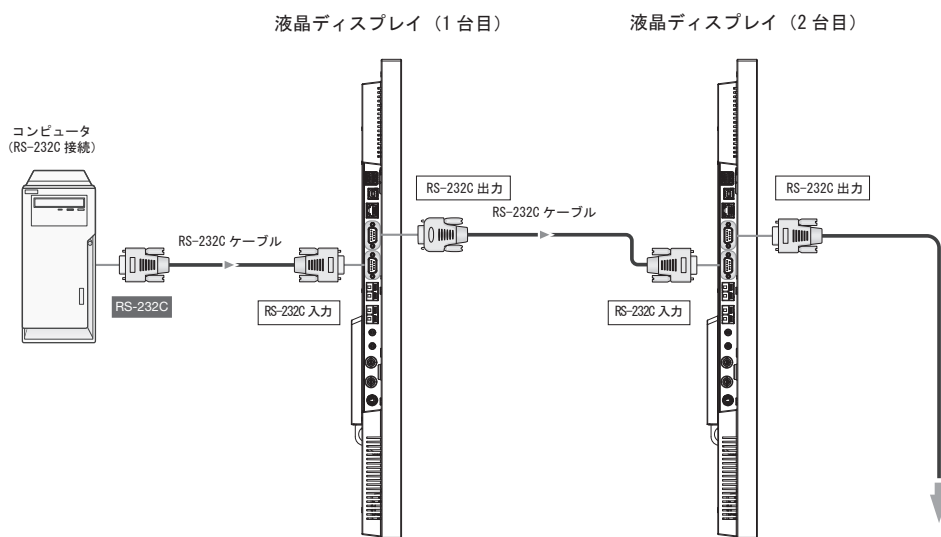
RS-232C経由で液晶ディスプレイを操作する

通信を介してコンピュータで液晶ディスプレイを操作するためには、RS-232C ケーブル（市販品）で液晶ディスプレイとコンピュータを接続します。

接続方法

- ・ コンピュータと液晶ディスプレイの主電源を切ります。電源を入れたまま接続すると、機器が故障する原因になります。
- ・ RS-232C リバースケーブル（市販品）でコンピュータと液晶ディスプレイを接続します。
- ・ また、下図のように2台以上のモニター接続する場合は、1台目の液晶ディスプレイのRS-232C 出力コネクタと2台目の液晶ディスプレイのRS-232C 入力コネクタを、RS-232C リバースケーブル（市販品）で接続します。同様の接続を繰り返すことで、液晶ディスプレイをデジチェーン接続できます。

注：最大 26 台の液晶ディスプレイを接続可能ですが、接続可能台数は設置環境により制限される場合があります。



(Sample Illustration) 42”

注：コンピュータにシリアルコミュニケーションポートとして装備されているのが25ピンのシリアルポートのみの場合、接続には変換アダプター（市販品）が必要です。

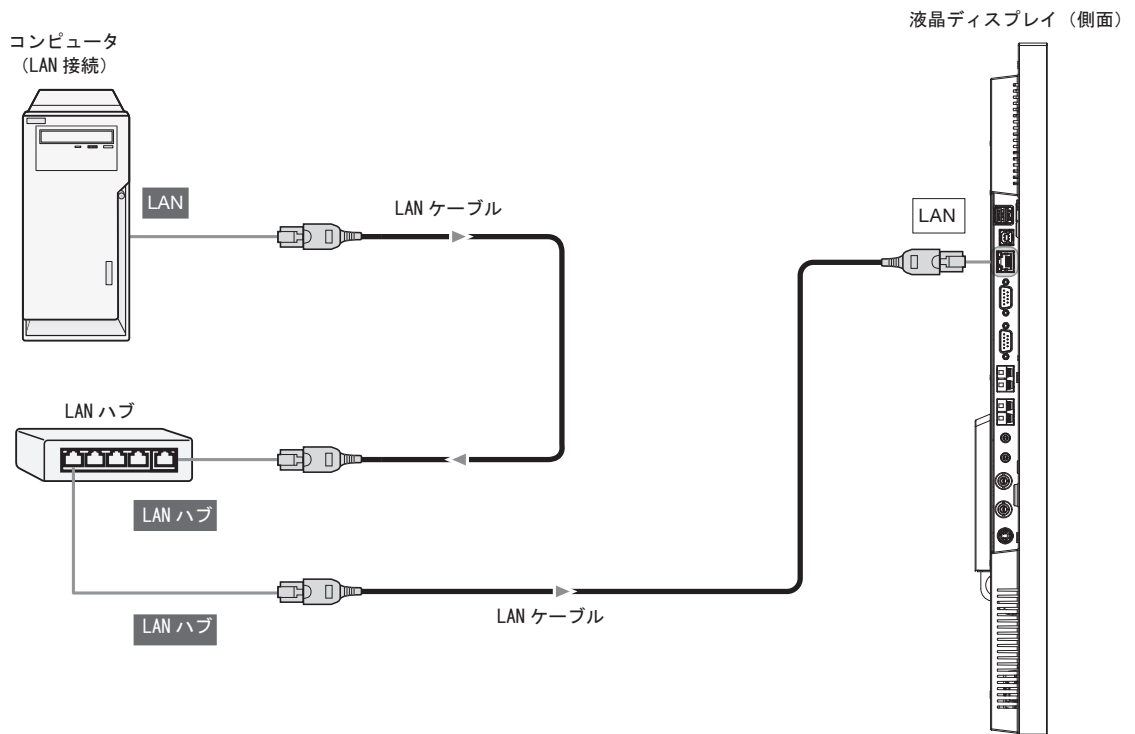
LANに接続する

LANでネットワークに接続する

下図の通り、本機はLAN ハブを介してネットワーク上のコンピュータと接続させることができます。ストレート LAN ケーブル（市販品）で本機と LAN ハブを接続します。

接続方法

- コンピュータと液晶ディスプレイの主電源を切ります。電源が入っている状態で接続作業をすると、機器の故障の原因となります。
- ストレート LAN ケーブル（市販品）でコンピュータと LAN ハブを接続します。
- ストレート LAN ケーブル（市販品）で液晶ディスプレイと LAN ハブを接続します。
- 2 台以上の液晶ディスプレイを接続する場合でも、ストレート LAN ケーブル（市販品）を使って同じようにモニターと LAN ハブを接続できます。



(Sample Illustration)42”

注：

- クロス LAN ケーブル（市販品）をお使いの場合、液晶ディスプレイとコンピュータを、LAN ハブを介さずに直接接続できますが、コンピュータが動作しないこともあります。事前に動作確認をすることをおすすめします。
- LAN 経由で画像転送する機能はサポートしていません。別の機器を制御するためのホスト機能は装備していません。

USB機器を接続する

USBハブを使って複数のUSB機器を接続する

本機の USB ハブは切り替えスイッチ付アップストリームポートを 2 ポート装備しています。1 つは外部コンピュータ接続用で、もう 1 つは内部の OPS 準拠モジュール接続用です。選択したアップストリームポートだけが USB ハブに接続されます。OSD 画面調整機能を使って適切なアップストリームポートを選びます。44、60 ページをご覧ください。

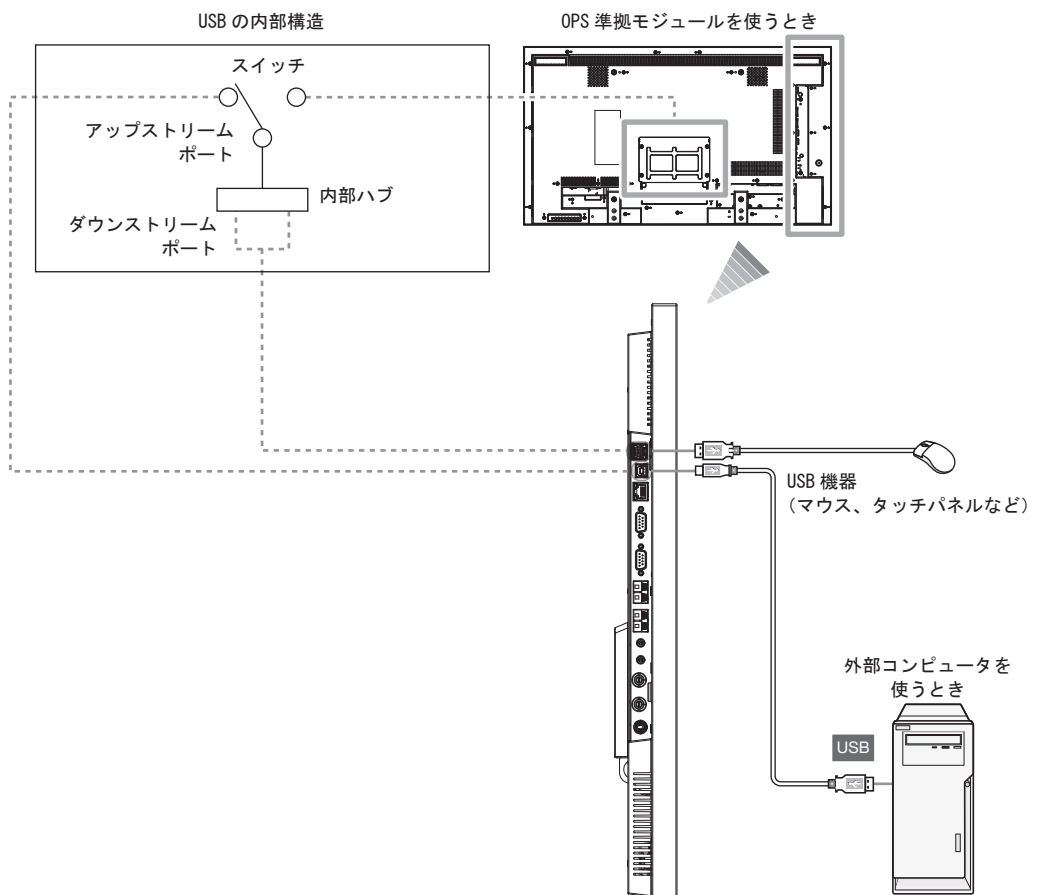
1 [外部コンピュータを使う場合]

コンピュータの USB ポート(スタンダード A)と本機の USB アップストリームポート(スタンダード B)を USB ケーブル(市販品)で接続します。

[OPS 準拠モジュールを使う場合]

OPS 準拠モジュールを装着します。(内部で接続)

2 液晶ディスプレイのダウンストリームポートに USB 機器を接続します。



(Sample Illustration)42”

注：

- ・ USB ハブを使用して本機の制御はできません。
- ・ 本機の USB ハブを使用すれば、最大 5 個までハブをカスケード接続できます。USB 規格に準拠して機器を接続する場合でも、事前に動作確認をしてください。

電源コードを接続する

電源に接続する

接続の前に

- ・ 本体の主電源が「切」になっていることを確認してください。

ご注意：OPS 準拠モジュールが装着されている場合、本体の主電源が「入」の状態では電源を接続すると、モジュールの電源が入ることがあり、オペレーションシステムやハードディスクの損傷・故障の原因になります。

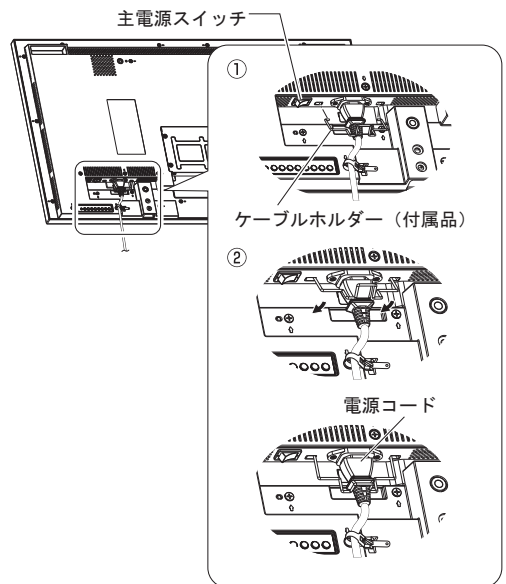
- ・ できるだけ本機に近い電源コンセントを使い、すぐに手が届くようにしてください。
- ・ 必ず接地接続を行ってください。
- ・ 接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。
また、接地接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

1 電源コードの電源プラグはモニターの電源入力コネクタに根元まで確実に差し込んでください。

2 電源プラグをケーブルホルダー（付属品）で固定します。

ご注意：ケーブルホルダーを電源コンセントに挿入することは絶対におやめください。感電の危険性があります。

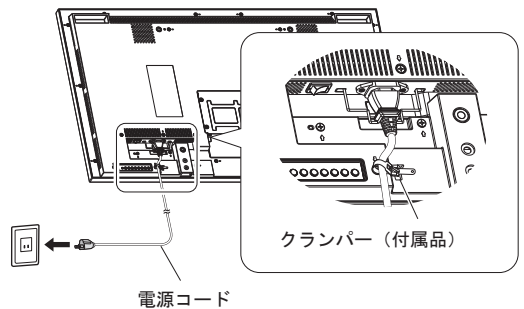
- 1) ケーブルホルダーの両端をモニターに装着します。
- 2) ケーブルホルダーを回転させ、電源コードにひっかけます。
- 3) ケーブルホルダーで電源コネクタを固定します。



3 クランパー（付属品）で電源コードを固定します。

4 電源プラグを電源コンセントに挿入します。

- ・ プラグは電源プラグに根元まで差し込んでください。差し込み方がゆるいと、感電したり、火災となることがあります。
- ・ 電源プラグは短時間に抜き差ししないでください。



第3章

操作方法

すべての接続機器の電源を入れる

1 コンピュータやDVDプレーヤーなどの接続機器の電源を入れます。

液晶ディスプレイの電源を入れる

ご注意：OPS 準拠モジュールが拡張モジュールとして装着されている場合、液晶ディスプレイの電源が入ると同時に、コンピュータの電源も自動的に入ります。

コンピュータが起動中のことがありますので、モニターの電源を入れた直後に電源を切る操作をしないでください。ビデオ入力は < OPTION > を選び、コンピュータのオペレーティングシステムが起動を完了するまで待ってください。

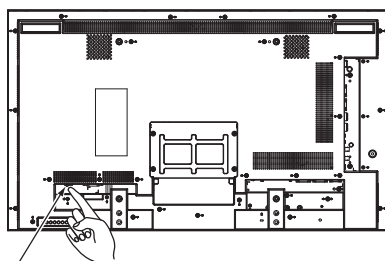
注：コンピュータが既定時間内（約1分間）に起動しない場合、< OPERATION ERROR > とエラーメッセージが表示されます。コンピュータの取扱説明書をご覧ください。

2 主電源を入れます。

電源表示ランプが緑色に点灯し、液晶ディスプレイの電源が入ります。

主電源が切れているとき（電源表示ランプは点灯しません）は、背面の操作ボタン、リモコン、スケジュールプログラム機能は使用できません。

これらを使用するときは、主電源が入っているか（電源表示ランプが点灯しているか）を確認してください。



主電源スイッチ

(Sample Illustration) 42" Power switch

3 電源表示ランプが赤色に点灯しているときは、液晶ディスプレイの電源ボタンを押してください。電源表示ランプが緑色に点灯します。

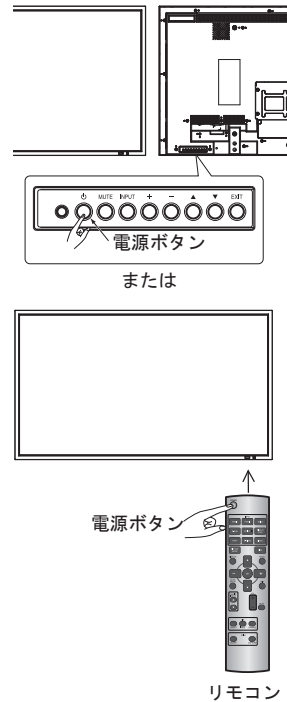
液晶ディスプレイの電源を入れる

注：リモコンや液晶ディスプレイの電源ボタンまたはコミュニケーション・コマンドを使って電源を切った後は、2秒以内に主電源を切ったり、電源コードを抜いたり、プレーカーを落としたりしないでください。

電源を切る操作の直後に交流電力が供給されなくなると、次に電源が入ったときに、言語選択などの OSD 設定が工場出荷設定値にリセットされることがあります。

OSD 設定が上記のように工場出荷設定値にリセットされた場合は、以下の方法で再設定してください。

1. リモコンなどを使って液晶ディスプレイの電源を切ります。
2. 2 秒以上待ちます。
3. リモコンなどを使って電源を入れます。
4. OSD 設定を確認、再設定してください。



省電力機能

電源が入っていても、一定時間キーボードやマウス操作がないときに、電力消費を減らすことができます。この機能が作動中は、画面が暗くなり、電源表示ランプは緑色および赤色に点灯します。

VESA 規格準拠の DPM 省電力機能を搭載したコンピュータが本機に接続されているときだけご使用になれます。省電力機能は OSD メニューのパワーセーブがオンになっているときに使用できます。

- < RGB > : コンピュータ入力 (< HDMI1 >、< HDMI2 >、< DVI-D >、< D-SUB >、< DISPLAYPORT >) の同期信号が終了したときは、本機は数秒でスリープモードになります。
- < VIDEO > : ビデオ入力 (< YPbPr >、< S-VIDEO >、< VIDEO >) の同期信号が終了したときは、本機は約 10 分でスリープモードになります

[ご説明]

< DPM > : ディスプレイ・パワー・マネジメント (Display Power Management の頭文字)

注：

- ・ < RGB > および < VIDEO > の省電力設定 (パワーセーバー) は初期設定で < オン > です。
- ・ 拡張モジュールがオプションスロットに装着されているときは、< 詳細設定 1 > メニューで < パワーセーブ > が < オン > になっていてもスリープモードにはなりません。

電源表示ランプ

状態	LED
電源「入」	緑色
電源「切」	赤色
< スケジュール > が有効な場合の待機	赤色点灯 緑色点滅
スリープモード	赤色、緑色
主電源「切」	点灯なし
診断 (故障を検出)	赤色点灯 * 66 ページの「故障かな? と思ったら」をご覧ください

ビデオ入力を選ぶ

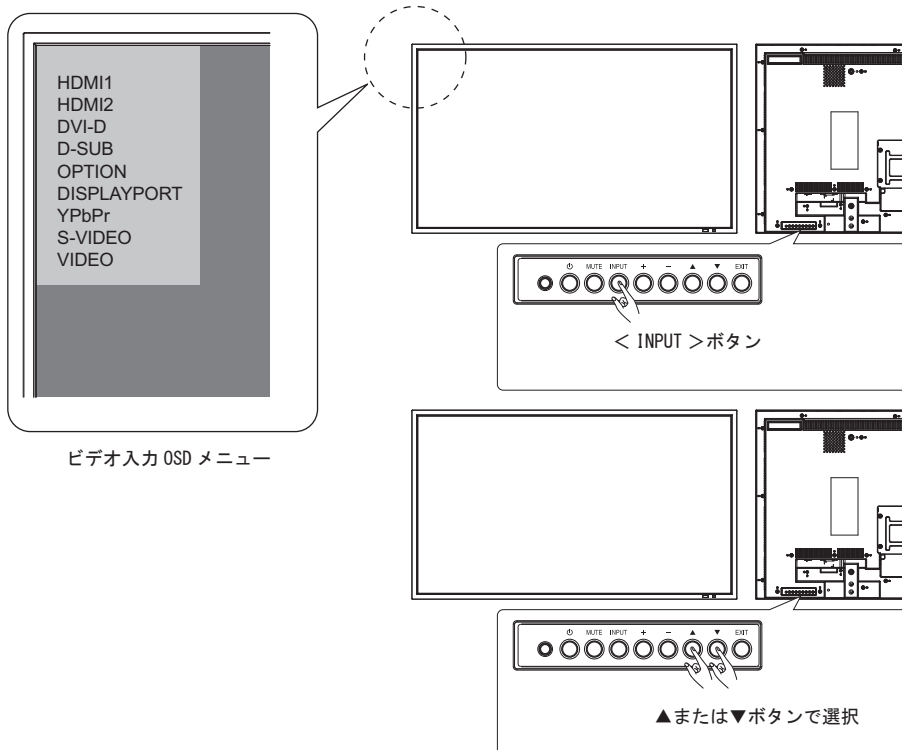
リモコンまたは液晶ディスプレイの< INPUT >ボタンからビデオ入力を選択できます。

- リモコンの< INPUT >ボタンからビデオ入力を選びます。
- リモコンの対応する< INPUT >ボタンを押してビデオ入力を選択できます。
選択可能なビデオ入力は、< [HDMI1] >、< [HDMI2] >、< [DVI-D] >、< [D-SUB] >、< [OPTION]* >、< [DISPLAYPORT] >、< [YPbPr] >、< [S-VIDEO] >、< [VIDEO] >です。
* < OPTION >は、拡張モジュールがオプションスロットに装着されているときに使用できます。



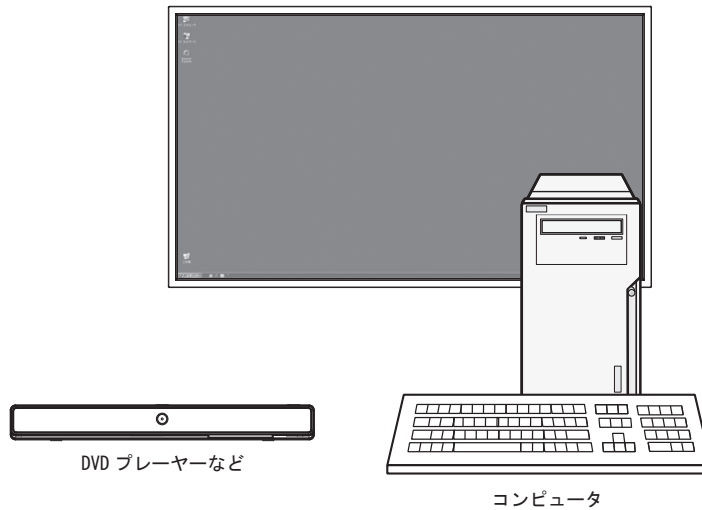
(Sample Illustration) Remote control effective range

- 液晶ディスプレイの< INPUT >ボタンからビデオ入力を選びます。
液晶ディスプレイの< INPUT >ボタンを押すと、ビデオ入力 OSD メニューが表示され、▲ / ▼ボタンでビデオ入力を選択できます。
選択可能なビデオ入力は、< [HDMI1] >、< [HDMI2] >、< [DVI-D] >、< [D-SUB] >、< [OPTION]* >、< [DISPLAYPORT] >、< [YPbPr] >、< [S-VIDEO] >、< [VIDEO] >です。
もう一度< INPUT >ボタンを押すと、選択したビデオ入力が表示されます。
* < OPTION >は、拡張モジュールがオプションスロットに装着されているときに使用できます。
- 注：ビデオ入力 OSD メニューが表示されている間に< INPUT >ボタンを押さないと、選択操作は完了しません。ビデオ入力 OSD メニューの表示時間は、< インフォメーション OSD >と同じです。56 ページをご覧ください。



接続機器を操作する

外部接続した機器を操作するときは、液晶ディスプレイに画像を表示します。



(Sample Illustration).

表示言語を選択する

リモコンの < MENU > ボタンか、液晶ディスプレイ背面の < EXIT > ボタンを押して OSD メニューを表示します。OSD 画面調整の < 詳細設定 1 > メニューの < 言語選択 > で、表示言語を選択できます。54 ページをご覧ください。



(Sample Illustration)

オートセットアップ (アナログ入力のみ)

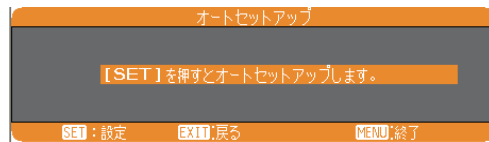
リモコンの< AUTO SETUP >ボタンを押すと、OSD 画面調整の<オートセットアップ>メニューを直接表示できます。または、リモコンの< MENU >ボタンか液晶ディスプレイ背面の< EXIT >ボタンを押して OSD 画面調整を表示し、< 詳細設定 1 >メニューで<オートセットアップ>を選択して、<オートセットアップ>メニューを表示することもできます。< SET >ボタンを押すと、スクリーンサイズ、水平・垂直位置、クロック、クロック位相、入力信号レベルを適切に自動調整できます。

注：オートセットアップは< D-SUB >でのみ使用できます。

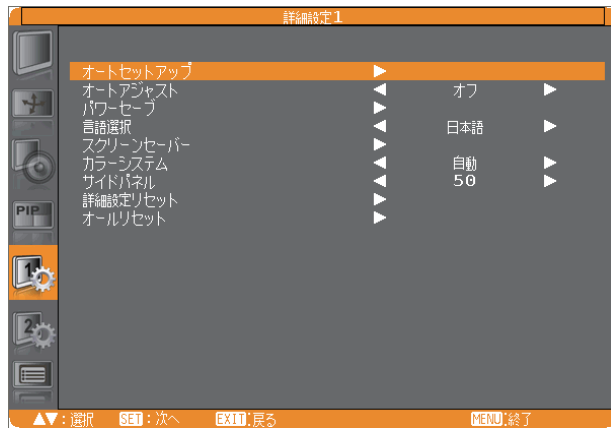


<オートセットアップ>を
直接表示

<オートセットアップ>メニュー画面



OSD メニューを表示



(Sample Illustration)

映像設定モードを選ぶ

リモコンの< PICTURE MODE > ボタンで、表示する映像に適した映像設定を選択できます。



< Highbright >	ブライトネス最大
< STANDARD >	工場出荷設定値
< sRGB >	sRGB 対応機器の色合わせに最適
< CINEMA >	映画鑑賞に最適

注：

- ・ < sRGB > はコンピュータ入力 (< HDMI1* >、< HDMI2* >、< DVI-D >、< D-SUB >、< OPTION > (OPS 準拠モジュール)、< DISPLAYPORT >) で選択できます。
- ・ < CINEMA > はビデオ入力 (< HDMI1* >、< HDMI2* >、< YPbPr >、< VIDEO >、< S-VIDEO >) で選択できます。

* 入力信号によって自動的に選択されます。

画面設定

オートセットアップの後も映像が正しく表示されない場合は、画面設定を調整してください。

リモコンの< MENU > ボタンか液晶ディスプレイ背面の< EXIT > ボタンを押して OSD メニューを表示させます。

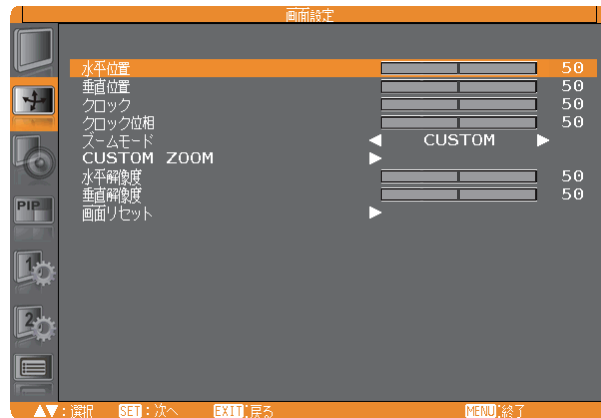
OSD 画面調整の< 画面設定 > メニューでは、水平・垂直位置、クロック、クロック位相、ズームモード、カスタムズーム、水平・垂直解像度を調節し、最適な画面設定ができます。

注：

位置調節は< D-SUB >、< YPbPr >、< S-VIDEO >、< VIDEO > でのみ行えます。

クロック調節、解像度調節は、< D-SUB > でのみ行えます。

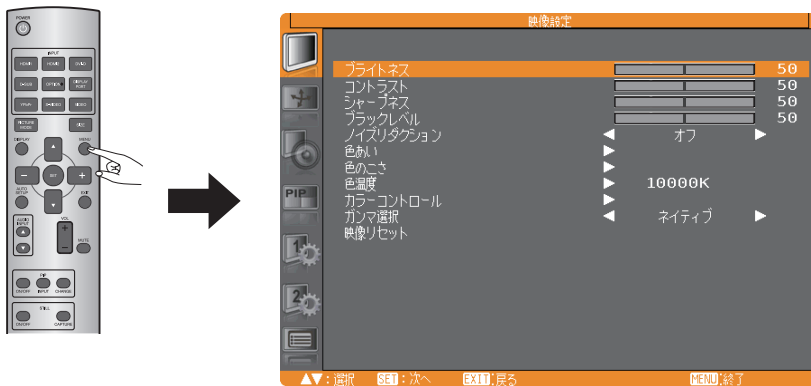
ズーム調整はビデオ入力でのみ行えます。



(Sample Illustration)

映像設定

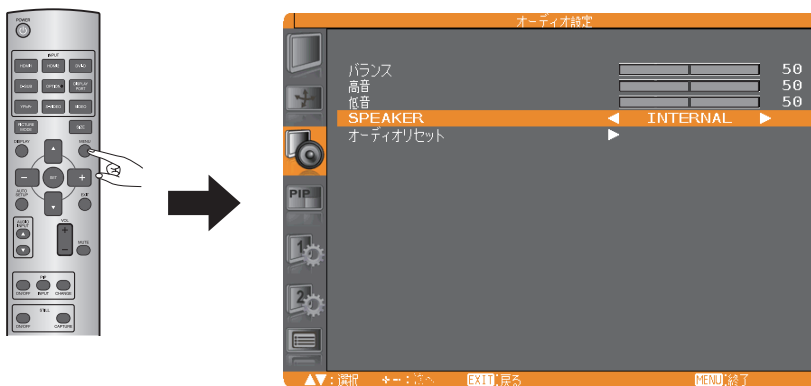
リモコンの< MENU >ボタンか液晶ディスプレイ背面の< EXIT >ボタンを押して OSD メニューを表示します。
OSD 画面調整の< 映像設定 >メニューでは、ブライトネス、コントラスト、シャープネスなどの映像設定を調節し、映像の質をお好みに調整できます。



(Sample Illustration)

スピーカーの設定

OSD メニューのスピーカー設定から内蔵スピーカーか外付けステレオ・スピーカーを選択します。
リモコンの< MENU >ボタンか液晶ディスプレイ背面の< EXIT >ボタンを押して OSD メニューを表示します。
OSD 画面調整の< オーディオ設定 >メニューにある< SPEAKER >からスピーカーを選択できます。

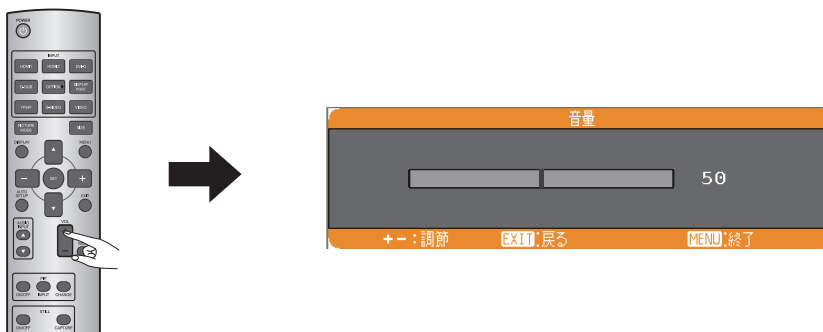


(Sample Illustration)

音量、バランス、トーンの調節

音量調節

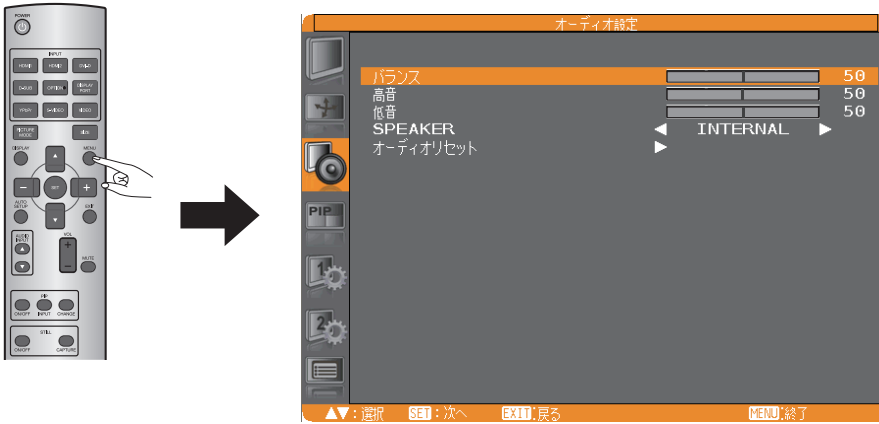
リモコンの< VOL >ボタンで音量調節ができます。



(Sample Illustration)

バランス、トーンの調節

OSD 画面調整の<オーディオ設定>メニューから、スピーカーのバランス、高音、低音を調節できます。
リモコンの< MENU >ボタンか液晶ディスプレイ背面の< EXIT >ボタンを押して OSD メニューを表示して調節します。



(Sample Illustration)

注：OPS 準拠モジュールを使用中に音声が出力されない場合は、コンピュータのオペレーティングシステムが音声出力源として液晶ディスプレイを選択しているか確認してください。選択方法については、コンピュータのオペレーティングシステムが音響機器のドライバーのヘルプまたは取扱説明書をご覧ください。

スケジュール設定

リモコンの< MENU >ボタンか液晶ディスプレイ背面の< EXIT >ボタンを押して OSD メニューを表示します。
OSD 画面調整の<詳細設定 2>メニューの<スケジュール>から、電源「入/切」と入力選択を予約できます。



(Sample Illustration)

スケジュール設定の方法



(Sample Illustration)

プログラム番号の選択

設定したいプログラム番号を選ぶには、カーソルが画面左のチャンネル番号1～7のチェックボックス上にあるときに、アップ（▲）/ダウン（▼）ボタンを押してカーソルを上下させます。選択したプログラム番号を有効にするには、<SET>ボタンを押してチェックボックスにチェックします。無効にするときはチェックマークをはずします。

プログラムのスケジュール設定

カーソルがチェックボックス上にあるときに、プラス（+）ボタンを押してカーソルを右側の白枠内に移動します。カーソルが白枠内のどこかにあるときにプラス（+）ボタンを押すと、カーソルが右に移動し、マイナス（-）ボタンを押すと左に移動します。

電源オン/オフ時間、ビデオ入力の設定をするには、アップ（▲）/ダウン（▼）ボタンを押します。また、<SET>ボタンでラジオボタンを選択したり解除したりできます。

<オン>	電源が入る時間を設定。設定したくない場合は「-」を入力。
<オフ>	電源を切る時間を設定。設定したくない場合は「-」を入力。
<入力>	電源が入ったときに選択するビデオ入力を表示。電源が入る前に選択されていたビデオ入力を選ぶときは「-」を入力。オン時間とビデオ入力を設定しているときは、ビデオ入力のための切り替えもできます。
<毎日>	スケジュールを毎日実行する場合に選択。<毎日>を選択しているときは、曜日や<毎週>を選択できません。
<月曜-日曜>	スケジュールを実行したい曜日を選択。同時に<毎週>を選択しない場合は、1回目のスケジュール実行後に設定は解除されます。
<毎週>	特定の曜日に毎週スケジュールを実行したいときに選択します。

スケジュールの確定

スケジュールを確定するときは、リモコンの<MENU>ボタンかモニター背面の<EXIT>ボタンを押して、OSDメニューの<スケジュール>メニューを消してください。

<スケジュール>メニューを解除する前に電源を切ると、スケジュール設定はキャンセルされます。

注：

- ・スケジュール設定の前に、<日付/時刻設定>で現在の日付と時間を必ず確認してください。
- ・<スケジュール>画面を閉じると、設定は保存されます。
- ・2つ以上のスケジュールが設定されている場合、チャンネル番号の大きい順に実行され、最後のスケジュール終了後に電源が切れます。
- ・2つ以上のスケジュールの電源オン/オフ時間が同じときは、番号が最も大きいチャンネルの予約が実行されます。
- ・電源オン時間と電源オフ時間は同じ時間に設定できます。
- ・<オフタイマー>が<オン>のときは、スケジュール設定は動作しません。
- ・主電源や電力供給が切れたときや、停電などでブレーカーが作動した場合は、設定したスケジュールは実行されません。

リモートコントロール

RS-232Cによるリモートコントロール

液晶ディスプレイがRS-232Cケーブル（市販品）を使ってコンピュータに直接接続されている場合は、通信経由で以下の操作が可能です。シリアルコミュニケーションの通信インターフェース（RS-232C）を選択してください。（56 ページをご覧ください。）

- ・ 電源「入」、「切」
- ・ 入力信号の切り替え
- ・ 音量調節・消音
- ・ オートセットアップ
- ・ 本機の内部温度の確認など

注：コンピュータの 25 ピンシリアルポートへの接続は、変換アダプター（市販品）が必要です。

1) インターフェース

プロトコル	RS-232C
通信速度	9600 [bps]
データ長	8 [bit]
パリティビット	なし
ストップビット	1 [bit]
フロー制御	なし

- ・ RS-232C を使って直接接続するためには、RXD・TXD・GND ラインをお使いください。

2) 制御コマンド概略図

コマンドはアドレスコード、ファンクションコード、データコード、エンドコードで構成されます。コマンドの長さはファンクションによって異なります。

注：

- ・ 下の例はコンピュータと液晶ディスプレイが1台ずつ接続されているときの基本コマンドです。
2台以上の液晶ディスプレイを接続したり、基本コマンド以外のコマンドを使って複雑な制御をしたい場合は、販売店に高度なコマンドの仕様についてお問い合わせください。
- ・ 通信ソフトを使用してキーパッドでコマンドを送信するときは、OSDメニューの〈詳細設定2〉の〈CONTROL TIME OUT〉から、〈2s〉または〈30s〉を選択します。
(LANの制御と同じ手順です。)

	アドレスコード	ファンクションコード	データコード	エンドコード
HEX	31h 30h 34h 38h	Function	Data	0Dh
ASCII	'1' '0' '4' '8'	Function	Data	☐

[アドレスコード] 31h 30h 34h 38h (ASCIIコードの場合、'1' '0' '4' '8') 固定

[ファンクションコード] 各制御動作固有のコード

[データコード] 各制御動作固有のデータ（数値で指定しない場合もあります。）

[エンドコード] 0Dh (ASCII code の場合、'☐') 固定

3) 制御シーケンス

- (1) コマンドはアドレスコード、ファンクションコード、データコード、エンドコードで構成されます。コマンドの長さはファンクションごとに異なります。
- (2) 本機はエンドコード受信後、600 ms*以内にリターンコマンドを送信します。受信できていないときはリターンコマンドを送信しません。（*電源「入」「切」または入力選択処理中には、リターンコマンドの伝送は600 ms以上かかることがあります。）
- (3) コンピュータはリターンコマンドをチェックし、コマンドの送信が成功したかを確認します。コンピュータは、次のコマンドを送信する前にリターンコマンドを受信している必要があります。
- (4) 液晶ディスプレイからはリターンコマンド以外にもさまざまなコードが送信されます。RS-232Cによる制御シーケンスを行っている場合は、他のコードをコンピュータ側でリジェクトする必要があります。

例：電源を「入」にする（' ' は ASCII コードの場合）

コンピュータから送信する 制御コマンド	本機からコンピュータへ返す リターンコマンド	意味
31 30 34 38 21 0D '1' '0' '4' '8' '!' '☐'		電源を「入」するコマンドを送信
	31 30 34 38 21 0D '1' '0' '4' '8' '!' '☐'	コマンドを受信 (コマンドエコーバック)

4) オペレーションコマンド

操作コマンドは本機の基本操作の設定を行います。信号切り換え時には動作しない場合があります。オペレーションコマンドにはデータコードはありません。

操作	ASCII	HEX
POWER ON	!	21h
POWER OFF	"	22h
FORCE POWER OFF WITH OPS*	" "	22h 22h
INPUT HDMI1	_r1	5Fh 72h 31h
INPUT HDMI2	_r7	5Fh 72h 37h
INPUT DVI-D	_r2	5Fh 72h 32h
INPUT D-SUB	_r3	5Fh 72h 33h
INPUT OPTION**	_r5	5Fh 72h 35h
INPUT DISPLAYPORT	_r6	5Fh 72h 36h
INPUT VIDEO	_v1	5Fh 76h 31h
INPUT YPbPr	_v2	5Fh 76h 32h
INPUT S-VIDEO	_v3	5Fh 76h 33h
BACKLIGHT LUMINANCE CONTROL	_b050	5Fh 62h 30h 35h 30h
IR CONTROL ON	_i1	5Fh 69h 31h
IR CONTROL OFF	_i0	5Fh 69h 30h
LOCAL-KEY CONTROL ON	_k1	5Fh 6Bh 31h
LOCAL-KEY CONTROL OFF	_k0	5Fh 6Bh 30h

* OPS 準拠モジュールが応答しない場合に使用します。

** OPTION はオプションスロットに拡張モジュールが装備されている場合に使用できます。

- ・ POWER ON または POWER OFF コマンド送信後は、最低 12 秒たってから次のコマンドを送信してください。
- ・ ビデオ入力選択のためのコマンド送信後は、最低 5 秒たってから次のコマンドを送信してください。液晶ディスプレイが 600 ms 以内に応答しないことがあります。
- ・ ホストサイドの制御機器はタイムアウト値を 30 秒以上に設定してください。
- ・ 電源が「切」のときには、POWER ON のオペレーションコマンドと、次に説明する電源状態を確認するコマンドのみ使用できます。
- ・ スリープモードのときは、POWER ON および POWER OFF のオペレーションコマンドと、次に説明する電源状態を確認するコマンドのみ使用できます。
 - ・ 拡張モジュールが装着されていないときは、FORCE POWER OFF WITH OPS コマンドは利用できません。
 - ・ 拡張モジュールが装着されているときは、すべての入力端子がスリープモードになりません。
- ・ オペレーションコマンドで電源を落とした後は、最低 2 秒待ってから主電源やプレーカーで電力を落としてください。OSD 設定が工場出荷設定にリセットされます。

5) リードコマンド

コンピュータは本機にデータコードなしでコマンドを送信します。

コマンド受信後、液晶ディスプレイは現在の状況などのデータコードをコンピュータに返します。

例：コンピュータが液晶ディスプレイの電源状態を確認し、液晶ディスプレイは電源が入っている状態のとき。

コンピュータから送信する 制御コマンド	本機からコンピュータへ返す リターンコマンド	意味
31 30 34 38 76 50 0D '0' '0' 'v' 'P' [enter]		電源状態を確認するコマンドを送信
	31 30 34 38 76 50 31 0D '1' '0' '4' '8' 'v' 'P' '1' [enter]	本機の電源は「入」

読み出しコマンド構成

		ASCII		HEX	
		ファンクション	データ (受信)	ファンクション	データ (受信)
電源	オン	vP	1	76 50	31
	オフ (スリープ)	vP	0	76 50	30
入力	HDMI1	vI	r1	76 49	72 31
	HDMI2	vI	r7	76 49	72 37
	DVI-D	vI	r2	76 49	72 32
	D-SUB	vI	r3	76 49	72 33
	OPTION*	vI	r5	76 49	72 35
	DISPLAYPORT	vI	r6	76 49	72 36
	VIDEO	vI	v1	76 49	76 31
	YPbPr	vI	v2	76 49	76 32
	S-VIDEO	vI	v3	76 49	76 33
内部温度	メインボード 解像度 1℃	tc1	(ex.) +25	74 63 31	2B 20 32 35
	電源周辺 解像度 1℃	tc2	(ex.) +31	74 63 32	2B 20 33 31
バックライトの 輝度を読み出し	設定および読み出し	vB	(ex.) 099	76 42	30 39 39
リモコンモードを 読み出し	オン	vR	1	76 52	31
	オフ	vR	0	76 52	30
ローカルキー コントロールを読み出し	オン	vL	1	76 4C	31
	オフ	vL	0	76 4C	30

* OPTION はオプションスロットに拡張モジュールが装備されている場合に使用できます。

注：本機は OPS 準拠モジュールのコマンドを認識しますが、コマンドの実行はしません。これは故障ではありません。自動オペレーションについては、OSD 画面調整の<詳細設定 2>メニューから<スケジュール>をお使いください。

LANによるリモートコントロール

本体を LAN ハブと LAN ケーブル経由でコンピュータに接続し (29 ページ)、その後、OSD 画面調整の<詳細設定 2>メニューにある<LAN 設定>を使用してネットワーク設定をしている場合は、RS-232C と同じコマンドで液晶ディスプレイを遠隔操作できます。

1 設定方法

- (1) シリアル通信機能に使用される通信インターフェースとして LAN を選びます。(56 ページをご覧ください。)
- (2) OSD メニューから以下のネットワークパラメータを設定します。(56 ページをご覧ください。)
 - ・DHCP クライアント オン / オフ、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ
- (3) 上記の IP アドレスとポート番号 (60822) をコンピュータのアプリケーションプログラムを使って設定し、ソケット通信を実行します。
- (4) RS-232C 向けと同じ制御コマンドを TCP/IP ソケット通信経由で送信します。
- (5) 本機からのリターンコマンドをチェックします。正常に受信されると、設定は完了します。

USBハブの設定

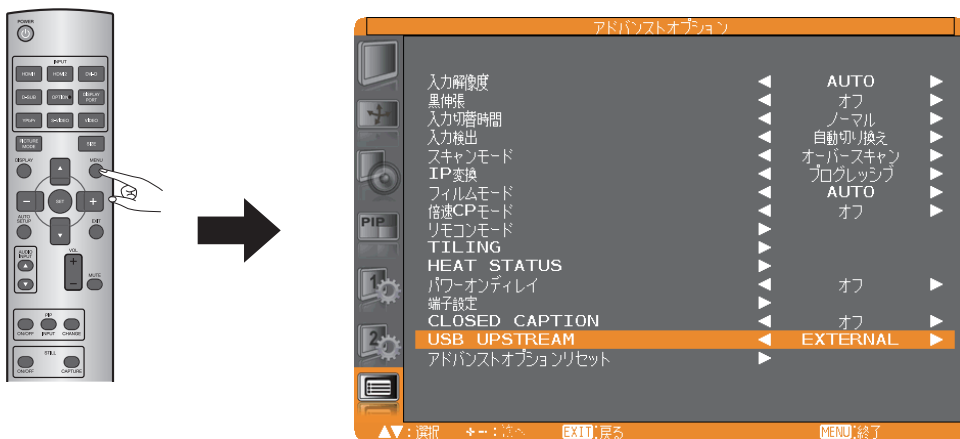
注：

- USB機能はお使いのコンピュータ、OS および USB 機器の BIOS 設定によっては使用できない場合があります。その場合は、それぞれの機器の取扱説明書を確認し、各メーカーにお問い合わせください。
- 本機の USB ハブを使用すれば、最大 5 個までハブをカスケード接続できます。USB 規格に準拠して機器を接続する場合でも、事前に動作確認をしてください。
- USB ハブを使用して液晶ディスプレイの制御はできません。

1 使用するコンピュータを選びます。

リモコンの < MENU > ボタンかモニター背面の < EXIT > ボタンを押して OSD メニューを表示します。

OSD 画面調整の < アドバンストオプション > メニューにある < USB UPSTREAM > から、使用するコンピュータ (< EXTERNAL/ OPS >) を選択します。



*EXTERNAL: External computer is selected.
OPS: OPS-compliant computer is selected.*

2 USB ハブが認識されているかを確認します。液晶ディスプレイの USB ハブはコンピュータにより検出され、OS 対応のデバイスが自動的にインストールされます。接続された USB ハブを認識しないコンピュータもありますが、その場合はコンピュータの取扱説明書をご覧になり、USB ハブ用のデバイスドライバをインストールしてください。

注：コンピュータによる液晶ディスプレイの認識には数秒間かかります。コンピュータが液晶ディスプレイを認識する前に USB ケーブルを抜いたり、短時間に抜き差しを繰り返すことは避けてください。

3 USB が認識されているかを確認します。コンピュータが USB デバイスを認識したら、USB デバイスのデバイスドライバをインストールします。OS 対応のデバイスが自動的にインストールされる場合もあります。接続された USB デバイスを認識しないコンピュータもありますが、その場合は USB デバイスの取扱説明書をご覧ください。








OSD画面の構成と基本操作

OSD画面の構成

本機は簡単に画面調整ができるよう、OSD機能を備えています。OSD画面では、画面に表示されるメニューを使ってブライトネスなどの設定を調整できます。OSD画面は以下のような構成になっています。

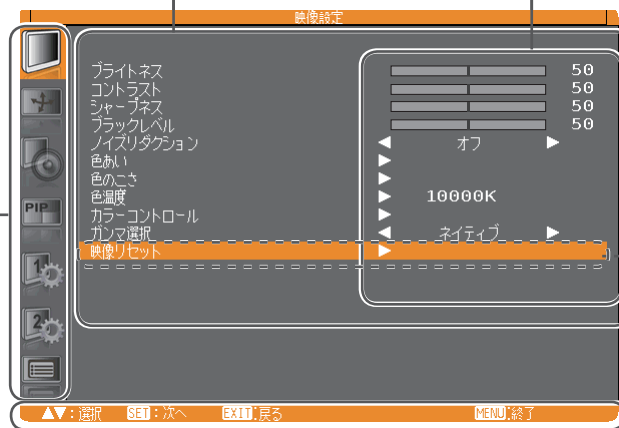
メインメニュー画面

メインメニュー
選択していないアイコンはグレーにハイライトされます。

 <映像設定>	Page 47	 <詳細設定 1 >	Page 54
 <画面設定>	Page 50	 <詳細設定 2 >	Page 56
 <オーディオ設定>	Page 52	 <アドバンストオプション>	Page 58
 <子画面設定>	Page 53		

サブメニュー（設定項目）
設定する項目が表示されます。

設定状況
リモコンや液晶ディスプレイのプラス（+）/マイナス（-）ボタンで調整した値が表示されます。



コントロールボタンガイド
表示されている OSD メニューを調整するためのボタンです。

サブメニュー画面


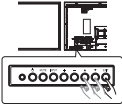
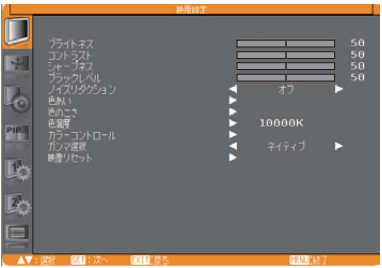

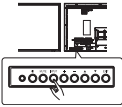


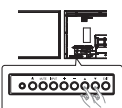


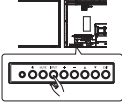


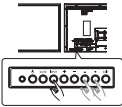

サブメニューを選ぶと OSD 画面が表示されます。サブメニューには、下図のように情報画面、調整メニュー画面、選択メニューがあります。

サブメニュー画面：<映像リセット>（例）



OSD画面の基本操作

電源表示ランプが緑に点灯し、液晶ディスプレイの電源が入っているかを確認してください。

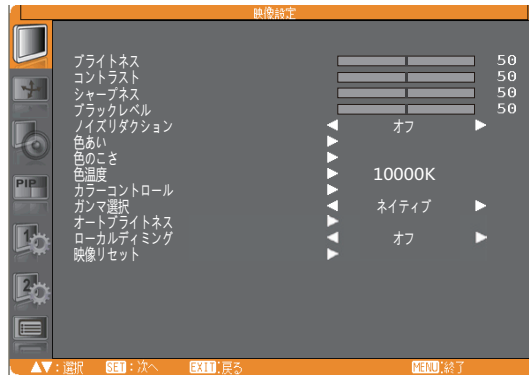
手順	リモコン	モニターのボタン	OSD画面の表示
1	 <p>< MENU > ボタンを押して OSD 画面を表示し、▲ / ▼ を押してメインメニューを選びます。</p>	 <p>< EXIT > ボタンを押して OSD 画面を表示し、▲ / ▼ を押してメインメニューを選びます。</p>	
2	 <p>< SET > ボタンを押して選択したメインメニューを確定すると、一番上にあるサブメニューが選択されます。</p>	 <p>< INPUT > ボタンを押して選択したメインメニューを確定すると、一番上にあるサブメニューが選択されます。</p>	
3	 <p>▲ / ▼ を押してサブメニューを選びます。</p>	 <p>▲ / ▼ を押してサブメニューを選びます。</p>	
4	 <p>< SET > ボタンを押して選択したサブメニューを確定します。</p>	 <p>< INPUT > ボタンを押して選択したサブメニューを確定します。</p>	
5	 <p>▲ / ▼ を押して設定を選び、< SET > ボタンを押して確定します。</p>	 <p>▲ / ▼ を押して設定を選び、< INPUT > ボタンを押して確定します。</p>	

OSD メニューを消すには、手順 5 の後に、リモコンの < MENU > ボタンを 1 回押すか、本体の < EXIT > ボタンを 3 回押します。

注：

上記の例の他に、プラス (+) / マイナス (-) ボタンで選択・設定できる項目もあります。
OSD 画面の下に表示されるコントロールボタンガイドに従ってボタン操作をしてください。

映像設定

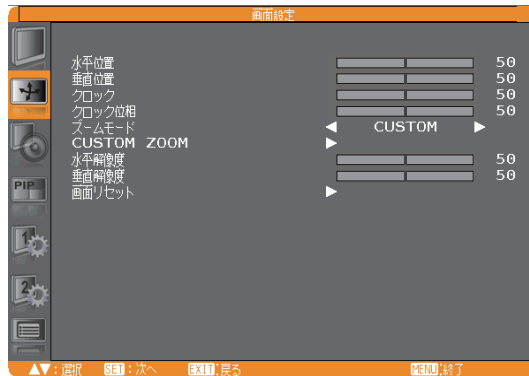


モード	機能
<ブライツネス>	<p>明るさを調整できます。明るくするときは、プラス (+) ボタンを押します。暗くするときは、マイナス (-) ボタンを押します。</p> <p>注：<詳細設定1>メニュー、<スクリーンセーバー>の<ブライツネス>が<オン>のときはこの項目の調整はできません。</p>
<コントラスト>	<p>コントラストを調整できます。お好みのコントラストに調整するには、プラス (+) / マイナス (-) ボタンを押します。</p> <p>注：ブライツネスによりバックライトの輝度が変わります。コントラストは信号レベルを変えるので、ホワイトネスが強くなる傾向があります。映像モードが<sRGB>のときは調整できません。</p>
<シャープネス>	<p>シャープネスを調整できます。映像をくっきりさせるには、プラス (+) ボタンを押します。やわからくするには、マイナス (-) ボタンを押します。</p> <p>注：シャープネスを上げすぎると、線が二重に見える場合があります。その場合は、シャープネスの値を下げてください。</p>
<ブラックレベル>	<p>画像の暗い部分の明るさを調整できます。画像の暗い部分を明るくするときはプラス (+) ボタンを押します。暗くするときはマイナス (-) ボタンを押します。</p> <p>注：映像モードが<sRGB>のときは調整できません。</p>
<ノイズリダクション>	<p>(RGB 入力信号のときは調整できません。)</p> <p>ノイズリダクションの水準を調整できます。ノイズを減らすときは、プラス (+) ボタンで値を大きくします。</p> <p>注：映像モードが<sRGB>のときは調整できません。</p>
「色合い [色合い]」	<p>すべての色を同時に調整できます。緑の色合いを強くするには、プラス (+) ボタンを押します。紫の色合いを強くするには、マイナス (-) ボタンを押します。個別に色合いを調整できる色は、< [RED] >、< [MAGENTA] >、< [BLUE] >、< [CYAN] >、< [GREEN] >、< [YELLOW] >です。カラーサークルを右回りに動かして色を選択するには、プラス (+) ボタンを押します。左回りに動かして色を選択するには、マイナス (-) ボタンを押します。</p> <div style="text-align: center;"> <p>カラーサークル</p> </div> <p>注：映像モードが<sRGB>のときは調整できません。</p>

モード	機能
<色のこさ>	<p>< [COLOR] >すべての色を同時に調整できます。色を濃くするには、プラス (+) ボタンを押します。色を薄くするには、マイナス (-) ボタンを押します。個別に色のこさを調整できるのは、< [RED] >、< [MAGENTA] >、< [BLUE] >、< [CYAN] >、< [GREEN] >、< [YELLOW] >です。選んだ色を濃くするには、プラス (+) ボタンを押します。薄くするには、マイナス (-) ボタンを押します。</p> <p>注：映像モードが< sRGB >のときは調整できません。</p>
<色温度>	<p>色温度を調整できます。赤みを強くするには、色温度を低くします。青みを強くするには、色温度を高くします。</p> <p>注：映像モードが< sRGB >のときは調整できません。</p>
<カラーコントロール>	<p>赤、緑、青の強さをカラーバーで調整できます。</p> <p>R: 赤、G: 緑、B: 青</p> <p>注：映像モードが< sRGB >のときは調整できません。</p>
<ガンマ選択>	<p>ガンマモードは< ネイティブ >、< S ガンマ >、< 2.2 >、< 2.4 >、< オプション >、< PROGRAMMABLE >から選択できます。< PROGRAMMABLE >では、コンピュータで< ガンマ >特性を変更できます。詳細は販売店にお問い合わせください。</p> <p>注：映像モードが< sRGB >では< ガンマ >は< 2.2 >に固定されています。< PROGRAMMABLE >が選択されているときは、色温度は 10,000K に固定されます。< (ネイティブ) ></p>
	<p>このモードでは、周囲の明るさに応じて、画面を見やすい明るさに調整します。また、周囲の明るさと表示内容に応じて画面の明るさを調整し、消費電力をできるだけ低く抑えます。</p> <p>注：映像モードが< sRGB >または< CINEMA >のときは調整できません。</p>
	<p>< [オートブライトネス] ></p> <p>< オートブライトネス >の設定が自動調整されます。</p> <p>< AUTO > 注：< AUTO >を選択しているときは、< [CONTROL] >以外の項目を個別に調整することはできません。</p> <p>< LOCAL > < オートブライトネス >機能が有効で、< [CONTROL] >とそれ以下の項目を個別に調整できます。</p> <p>< REMOTE > < オートブライトネス >機能が有効です。また、相互通信モードになっており、複数の液晶ディスプレイが1つのグループとしてコントロールされます。(63 ページをご覧ください。)</p> <p>< オフ > 調整は無効です。</p>
<オートブライトネス>	<p>< [CONTROL] > 複数の液晶ディスプレイを1つのグループとしてコントロールする場合、</p> <p>< PRIMARY > 選択した液晶ディスプレイがマスターとして設定されます。</p> <p>< SECONDARY > 複数の液晶ディスプレイを1つのグループとしてコントロールする場合、選択した液晶ディスプレイを独立して使用するか、または従属液晶ディスプレイとして設定できます。</p>
	<p>< [LIGHT FROM BACK] ></p> <p>この機能は< [REAR SENSOR] >が< オン >のときのみ使用できます。照明などの光源や窓がモニターの後ろにある場合、背面センサーが優先します。</p> <p>< する > 照明器具や窓などがモニターの後ろにあるときに設定します。</p> <p>< しない > 照明器具や窓などがモニターの後ろにないときに設定します。</p>
	<p>< [BACK WALL] ></p> <p>このモードは< [REAR SENSOR] >が< オン >のときのみ使用できます。本体の背面から壁または窓までの距離に応じて、下記の設定を選びます。</p> <p>< FAR > 距離が 5 メートル以上のとき</p> <p>< NEAR > 距離が 5 メートル以下のとき</p> <p>< [FRONT SENSOR] ></p> <p>通常は< オン >を選びます。</p> <p>< オフ > パネル前面のセンサーがさえぎられている場合に選びます。</p>

モード	機能
	<p>< [REAR SENSOR] ></p> <p>通常は<オン>を選びます。</p> <p><オフ> パネル背面のセンサーがさえぎられている場合を選びます。</p>
	<p>< [SATURATION] ></p> <p><オン> 周囲の明るさに応じて、映像の彩度が調整されます。</p> <p><オフ> 映像の彩度は調整されません。</p>
	<p>< [VIDEO DETECT] ></p> <p><オン> 表示される映像に応じて画面の明るさが変わり、消費電力を抑えます。</p> <p><オフ> 画面の明るさは調整されず、消費電力は抑えられません。</p>
<ローカルディミング>	<p>この機能を ON にすると、黒部分が多い映像の場合バックライトを自動制御して消費電力を小さくできます。</p> <p>注：映像によっては、違和感のある動作に感じる場合があります。この場合は、設定をオフにしてください。</p>
<映像リセット>	<p>すべての<映像>設定を工場出荷値にリセットできます。</p>

<画面設定>



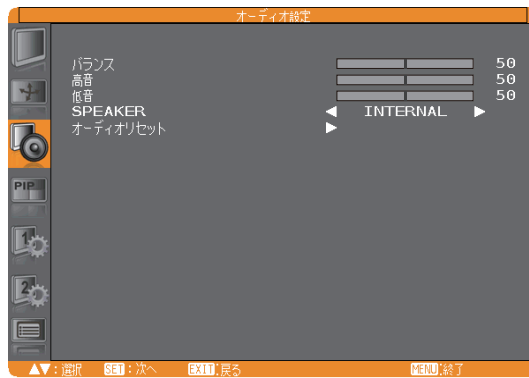
モード	機能
<水平位置>	映像の水平位置を調整できます。映像を右に動かすには、プラス (+) ボタンを押します。映像を左に動かすには、マイナス (-) ボタンを押します。
<垂直位置>	映像の垂直位置を調整できます。映像を上動かすには、プラス (+) ボタンを押します。映像を下動かすには、マイナス (-) ボタンを押します。
<クロック>	(< D-SUB > 入力の際のみ) コンピュータの映像サイズを調整し、文字のにじみをなくします。映像の幅を右側に拡大するには、プラス (+) ボタンを押します。映像の幅を左側に縮小するには、マイナス (-) ボタンを押します。
<クロック位相>	(< D-SUB > 入力の際のみ) 画面のちらつきの周期的な変動レベルを調整できます。
<ズームモード>	映像を画面に合うように、引き伸ばすことができます。 < HDMI1 >、 < HDMI2 >、 < DVI-D >、 < D-SUB >、 < DISPLAYPORT > 入力では、 < FULL >、 < NORMAL >、 < CUSTOM >、 < REAL > を選択できます。 < YPbPr >、 < S-VIDEO >、 < VIDEO > では、 < FULL >、 < NORMAL >、 < DYNAMIC >、 < CUSTOM >、 < REAL > を選択できます。 < FULL > アスペクト比に関わらず、画面いっぱいに映像を引き伸ばします。 < NORMAL > アスペクト比は変えず、画面の高さいっぱいに垂直方向に映像を引き伸ばします < DYNAMIC > 画面の中央と端で異なる倍率で、画面いっぱいに映像を引き伸ばします。 < CUSTOM > < CUSTOM ZOOM > 設定では、お好みに合わせて、水平・垂直方向に映像を引き伸ばすことができます。 < REAL > 映像をそのまま表示します。引き伸ばすことも、縮小させることもしません。

注：

Note: < DYNAMIC > モードでは、 < FULL > モードと同様に、アスペクト比 16 : 9 の映像（例えば解像度 1920 x 1080）を表示します。

モード	機能	
< CUSTOM ZOOM >	< CUSTOM ZOOM >	< CUSTOM ZOOM >は<ズームモード>を< CUSTOM >に設定しているときに選択できます。
	< ZOOM >	映像を水平・垂直方向に同時に引き伸ばせます。
	< H ZOOM >	映像を水平方向にのみ引き伸ばせます。
	< V ZOOM >	映像を垂直方向にのみ引き伸ばせます。
	<水平位置>	映像を右に動かすには、プラス (+) ボタンを押します。映像を左に動かすには、マイナス (-) ボタンを押します。
	<垂直位置>	映像を上を動かすには、プラス (+) ボタンを押します。映像を下に動かすには、マイナス (-) ボタンを押します。
<水平解像度>	(< D-SUB >入力の際のみ) <オートセットアップ>や<オートアジャスト>で入力信号の水平解像度が得られない場合にこの設定を使います。解像度を上げるには、プラス (+) ボタンを押します。解像度を下げるにはマイナス (-) ボタンを押します。	
<垂直解像度>	(< D-SUB >入力の際のみ) <オートセットアップ>や<オートアジャスト>で入力信号の垂直解像度が得られない場合にこの設定を使います。解像度を上げるには、プラス (+) ボタンを押します。解像度を下げるには、マイナス (-) ボタンを押します。	
<画面リセット>	すべての<映像設定>を工場出荷値にリセットできます。	

<オーディオ設定>



モード	機能
<バランス>	左右の音量バランスを調整できます。左の音量を下げるには、プラス（+）ボタンを押します。右の音量を下げるには、マイナス（-）ボタンを押します。
<高音>	高周波音を調整できます。高音域を強くするには、プラス（+）ボタンを押します。高音域を弱くするには、マイナス（-）ボタンを押します。
<低音>	低周波音を調整できます。低音域を強くするには、プラス（+）ボタンを押します。低音域を弱くするには、マイナス（-）ボタンを押します。
<SPEAKER>	内蔵スピーカーと外付けスピーカーを切り換えられます。 < INTERNAL > 内蔵スピーカーから出力します。 （最大出力 10W+10W） < EXTERNAL > 外付けスピーカーから出力します。 （最大出力 10W+10W）
<オーディオリセット>	すべての<オーディオ設定>を工場出荷値にリセットできます。

<子画面設定> (ピクチャーインピクチャー)

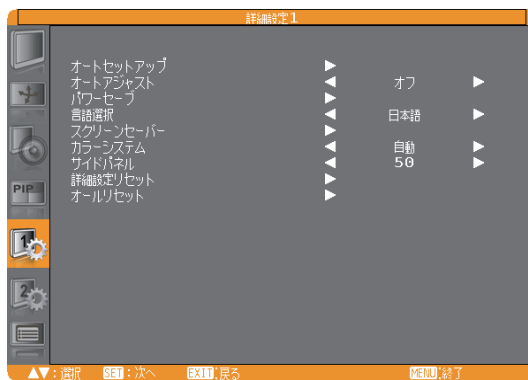


注:

PIP と POP は、映像サイズが < CUSTOM > または < REAL > モードのときは機能しません。詳細は「子画面設定」(64 ページ) をご覧ください。

モード	機能
<子画面モード>	<p>子画面モードは、<子画面設定>、<POP>、<SBS ASPECT>、<SBS FULL>、<オフ>から、プラス (+)、マイナス (-) ボタンを使って選びます。64 ページをご覧ください。</p> <p><子画面設定></p> <p><POP></p> <p><SBS ASPECT></p> <p><SBS FULL></p> <p><オフ></p> <p>* < SBS > : サイドバイサイド</p>
<子画面サイズ>	子画面設定モードで表示する子画面のサイズを選びます。子画面を動かすには、アップ (▲)、ダウン (▼)、プラス (+)、マイナス (-) ボタンを使います。
<音声選択>	子画面設定モードでの音声を選択できます。<親画面音声>が選択されているときは、親画面の音声が出力されます。<SUB>が選択されているときは、子画面の音声が出力されず。
<子画面水平位置>	子画面の水平位置を調整できます。子画面を右に動かすには、プラス (+) ボタンを押します。子画面を左に動かすには、マイナス (-) ボタンを押します。
<子画面垂直位置>	子画面の垂直位置を調整できます。子画面を上には、プラス (+) ボタンを押します。子画面を下には、マイナス (-) ボタンを押します。
<サブ入力 >	< HDMI >、< DVI-D >、< D-SUB >、< YPbPr >、< S-VIDEO >、< VIDEO >から子画面のビデオ入力を選択できます。
<子画面リセット>	すべての<子画面設定>を工場出荷値にリセットできます。

<詳細設定1>



モード	機能
<オートセットアップ>	(< D-SUB >入力の際のみ) 画面サイズ、水平・垂直位置、クロック、クロック位相、入力信号レベルが自動的に調整されます。
<オートアジャスト>	(< D-SUB >入力の際のみ) <オートアジャスト>が<オン>のときは、水平位置、垂直位置、クロック位相はタイミング切り換え時に自動的に調整されます。
<パワーセーブ>	OSD メニューのパワーセーバーがオンのときに機能します。
< RGB >	コンピュータ入力 (< HDMI1 >、< HDMI2 >、< DVI-D >、< D-SUB >、< DISPLAYPORT >) の同期信号が切断されると、液晶ディスプレイは数秒後にスリープモードになります。
< VIDEO >	ビデオ入力 (< YPbPr >、< S-VIDEO >、< VIDEO >) の同期信号が切断されると、液晶ディスプレイは約10分後にスリープモードになります。
注：	オプションスロットに拡張モジュールが装着されているときは、このモードは機能しません。オンに設定していても、スリープモードにはなりません。他のビデオ入力を選んでも、液晶ディスプレイはスリープモードにはなりません。
<言語選択>	OSD メニューは8か国語で表示できます。(< English >、< German >、< Spanish >、< French >、< Italian >、< Swedish >、< Japanese >、< Simplified Chinese >)
<スクリーンセーバー>	「残像」のリスクを低減するために、<スクリーンセーバー>機能を設定できます。
<ガンマ>	<オン>を選択すると、画像の残像が発生しにくいガンマモードが使われます。
< COOLING FAN >	<オン>を選択すると、冷却ファンが常時動作します。< AUTO >を選択すると、内蔵冷却ファンが使用環境に応じて自動的に作動します。
<ブライトネス>	<オン>を選択すると、明るさが抑えられます。

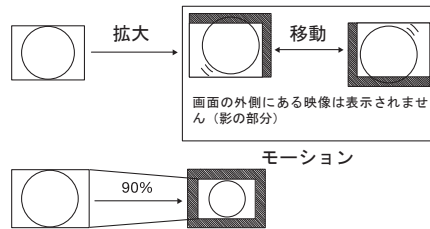
モード	機能
-----	----

< MOTION > 画像の残像の影響を抑えるため、画面が定期的に水平・垂直に若干動きます。

注：<アドバンストオプション>メニューの<TILTING>が選択されているときは、<MOTION>を<オン>にできません。

< MOTION >設定で期間を選択していると、画像が引き伸ばされ、水平・垂直に動きます。表示範囲の外にある画像を見ることはできません。画像全体を常時見えるように設定するには、画面中央で、画面サイズの90%に入るように調整します。

<スクリーンセーバー>



(< S-VIDEO >、< VIDEO >入力の際のみ)
お使いの映像機器に応じてカラーシステムを選択できます。

<カラーシステム>

< AUTO >	< NTSC >、< PAL >、< SECAM >、< PAL-60 >、< 4.43 NTSC >が自動的に選択されます。
< NTSC >	< NTSC >
< PAL >	< PAL >
< SECAM >	< SECAM >
< 4.43 NTSC >	< 4.43 NTSC >
< PAL-60 >	< PAL-60 >

注：

映像機器を海外で購入した場合は、<カラーシステム>を設定してください。

<サイドパネル>

<ズームモード>、< POP >、またはその他の<子画面モード>で、4 : 3の画像が< NORMAL >モードで表示されているとき、画像が表示されていない範囲の明るさを調整できます。

<詳細設定リセット>

<詳細設定 1 >、<詳細設定 2 >メニューの設定が、工場出荷値にリセットされます。<言語選択>、<モニター ID >、<スケジュール>、<日付 / 時刻設定>はリセットされません。

<オールリセット>

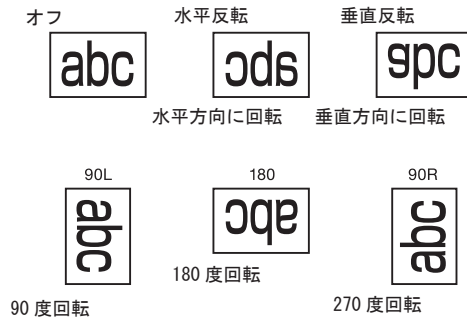
<映像設定>、<画面設定>、<オーディオ設定>、<詳細設定 1 >、<詳細設定 2 >、<アドバンストオプション>メニューの設定が工場出荷値にリセットされます。また、ワイヤレス・リモートコントロールで選択された映像モードが工場出荷値にリセットされます。<言語選択>、< CONTROL TIME OUT >、<モニター ID >、<スケジュール>、<日付 / 時刻設定>、< DDC/CI >はリセットされません。

<詳細設定2>



モード	機能
< SERIAL CONTROL >	シリアルコミュニケーションの通信インターフェース (RS-232C、OPS (OPS 準拠モジュール)、LAN) を選びます。 信号ケーブルの接続については、28 ページをご覧ください。
< LAN 設定 >	LAN ネットワークの通信パラメータを設定できます。 < DHCP CLIENT > DHCP CLIENT を使用するかどうかが選択します。使用しないときは、<オフ>、使用するときは<オン>を選びます。 < IP ADDRESS > < DHCP CLIENT > が<オフ>の場合、本機の IP アドレスを設定します。< DHCP CLIENT > が<オン>の場合、DHCP サーバーが設定した値を確認できます。 < SUBNET MASK > < DHCP CLIENT > が<オフ>の場合、ゲートウェイマスクを設定します。通常のご使用には、255.255.255.0 に設定します。< DHCP CLIENT > が<オン>の場合、DHCP サーバーが設定した値を確認できます。 < DEFAULT GATEWAY > < DHCP CLIENT > が<オフ>の場合、本機を含むローカルエリアに外部接続するには、ゲートウェイルーターの IP アドレスを設定します。< DHCP CLIENT > が<オン>の場合、DHCP サーバーが設定した値を確認できます。 < PORT > 本機のポート番号 (60822) が表示されます。 < RESET > LAN 設定がリセットされます。
< CONTROL TIME OUT >	リモートコントロールを使用している場合、制御コマンドのコード間の転送タイムアウト時間を設定できます。 < 10ms > タイムアウト時間を 10 ミリ秒に設定します。 < 2s > タイムアウト時間を 2 秒に設定します。 < 30s > タイムアウト時間を 30 秒に設定します。
< モニター ID >	RS-232C 経由でマルチ接続されている液晶ディスプレイに、ワイヤレスコントロールのための ID 番号を割り当てます。ID 番号は 1 ~ 26 から選択できます。
< OSD 表示時間 >	OSD メニューは操作をしている最中は常に表示されます。プリセットの表示時間は 5 ~ 120 秒です。
< OSD 水平位置 >	OSD メニューの水平位置を調整できます。
< OSD 垂直位置 >	OSD メニューの垂直位置を調整できます。
< OSD 回転 >	OSD 画面を回転します。

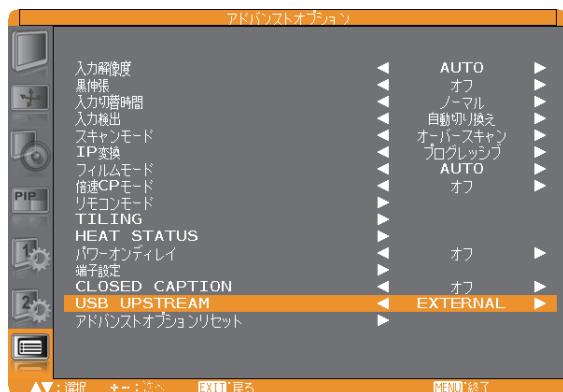
モード 機能



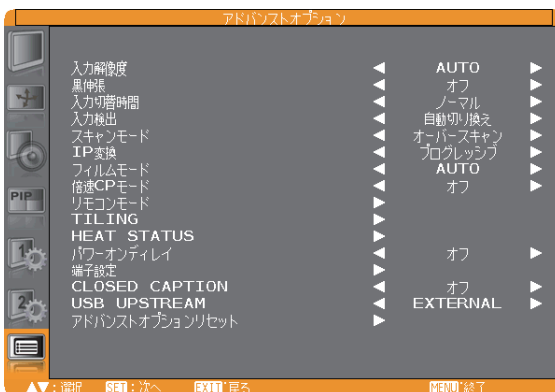
<p><インフォメーション OSD ></p>	<p>インフォメーション OSD 表示を有効 / 無効にできます。表示時間は 3 ~ 10 秒から選択できます。</p> <p>注：インフォメーション OSD 表示は入力切り変わったとき、入力信号の状態が変化するとき、または入力信号にエラーがあるときにメッセージを表示します。</p>
<p><オフタイマー></p>	<p>オフタイマー機能を選べます。自動で電源を切る時間を 1 ~ 24 時間から選びます。</p> <p>注：オフタイマー設定中は、<スケジュール>設定は (40 ページをご覧ください。) 機能しません。</p>
<p><スケジュール></p>	<p>本機の動作時間を設定できます (40 ページをご覧ください)。 スケジュールの設定方法 <スケジュール>機能を使うと、本機を作動させるスケジュールを 7 パターン設定できます。</p> <p>電源を「入」、「切」にする時間、曜日、各スケジュールで使用する入力を選べます。スケジュール番号の隣のチェックボックスにチェックが入っている場合は、選択されたスケジュールが有効であることを表します。</p> <p>どのスケジュールを設定するかは、アップ / ダウン矢印を動かしてスケジュール番号 (1 ~ 7) を選びます。</p> <p>特定のスケジュールの中でカーソルを左右に動かすには (+) / (-) ボタンを使います。</p> <p>時間を増やしたり、入力ポートを選ぶには、▲ / ▼ ボタンを使います。選択を決定するには < SET > を使います。電源を入れる時間を設定せずに、スケジュールをつくるには、< オン > タイムスロットで「--」を選びます。</p> <p>電源を切る時間を設定しないときは、< オフ > タイムスロットで「--」を選びます。入力が選択されていない場合は (入力スポットは「--」)、前回のスケジュールの入力が使われます。</p> <p>< 毎日 > の設定をした場合、< 毎週 > の設定、曜日指定はできません。</p> <p>電源「入」「切」のスケジュールが重なっている場合、電源「入」が優先されます。同じ時間に 2 つのスケジュールが予約されている場合は、番号の大きい方のスケジュールが優先します。</p> <p>オフタイマーが設定中は、< スケジュール > 設定はできません。</p>
<p><日付 / 時刻設定></p>	<p>内蔵されている時計の現在時刻と日付を調整できます。< スケジュール > 機能を使う場合は、この設定をする必要があります。設定終了後、必ず < SET > ボタン (10 ページのボタン⑤) を押してください。液晶ディスプレイのボタンを使う場合、< INPUT > ボタン (10 ページのボタン⑤) を押してください。</p>
<p><モニターインフォメーション></p>	<p>本機のモデル名、シリアル番号が表示されます。LAN の MAC アドレスも表示されます。</p>

<アドバンストオプション>

55"



70"



モード	機能
	(< D-SUB > 入力の際のみ) 液晶ディスプレイが入力信号の解像度を正しく認識できない場合は、手動で適切な解像度を選択できます。信号が次の3つのグループの解像度の値に近いときは、最適なグループを選択できます。
< 入力解像度 >	グループ 1 : < AUTO >、< 1024 x 768 >、< 1280 x 768 >、< 1360 x 768 >、< 1366 x 768 > グループ 2 : < AUTO >、< 1400 x 1050 >、< 1680 x 1050 > グループ 3 : < AUTO >、< 1600 x 1200 >、< 1920 x 1200 >
< 黒伸長 >	(< HDMI1-HD >、< HDMI2-HD >、< DVI-D-HD >、< DISPLAYPORT > (YCbCr signal)、< OPTION > (YCbCr signal)、< YPbPr >、< S-VIDEO >、< VIDEO > 入力の際のみ。) 黒伸長レベルを< オフ >、< MIDDLE >、< HIGH >から選択します。
< 入力切替時間 >	< QUICK > と < ノーマル > から入力を切り換える時間を選択できます。 注：< QUICK > を選んでいる場合、若干のノイズがおこる可能性があります。
< 入力検出 >	この機能では、映像信号がビデオ入力に存在するかどうかを検出し、自動で入力を選択されます。同時に複数の信号が入力された場合、優先順位をつけます。より優先順位の高い信号が入力されても、表示中の信号は変わりません。
< 自動切り換え >	対象となるビデオ入力は、< DVI-D >、< D-SUB > です。この機能では、選択中の入力信号が消えた場合、別の入力に信号が存在するか確認します。別の入力信号がある場合は、その入力が自動的に選択されます。どちらの入力にも5秒間にわたり信号がない場合は、液晶ディスプレイはスリープモードになります。オプションスロットに OPS BOX など拡張モジュールが装着されている場合、< DVI-D > の代わりに < OPTION > が対象になります。優先順位は、< DVI-D > > < D-SUB > になります。 注：< DVI-D >、< OPTION >、< D-SUB > 以外の入力は選択できません。拡張モジュールが装着されているときは、スリープモードになりません。
< VIDEO DETECT >	対象となるビデオ入力は、< HDMI1 >、< S-VIDEO >、< VIDEO >、< D-SUB > です。< HDMI1 >、< S-VIDEO >、< VIDEO > 入力が出検された場合、検出された入力が自動で選択されます。 表示中のビデオ信号が消えた場合、< D-SUB > 入力が自動的に選択されます。優先順位は、< HDMI1 > > < VIDEO > > < S-VIDEO > になります。 注：< HDMI2 >、< DVI-D >、< OPTION >、< DISPLAYPORT > は選択できません。拡張モジュールが装着されているときは、スリープモードになりません。
< オフ >	ビデオ入力は自動で選択されません。

モード	機能
< スキャンモード >	(< D-SUB > 入力の際は機能しません) 映像の表示範囲を選択できます。
	< オーバースキャン > 入力された映像のおよそ 95%が表示されます。
	< UNDERSCAN > 入力された映像のほぼ 100%が表示されます。
< IP 変換 >	(< D-SUB > 入力の際は機能しません) インターレース信号の場合のみ機能します。IP 変換モードを選択できます。
	< プログレッシブ > インターレース信号がプログレッシブ信号に変換されます。通常はこの設定を選択します。
	< INTERLACE > インターレース信号が変換されずに表示されます。この設定は動画には適していますが、静止画像は正しく表示されません。
< フィルムモード >	(< D-SUB > 入力の際は機能しません) インターレース信号でのみ機能します。フィルムモード機能を選択できます。
	< AUTO > 24 フレーム / 秒の映像が検出されます。補間後に表示されます。
	< オフ > 処理なしで入力信号が表示されます。
	注 : < フィルムモード > が < AUTO > の場合は、< プログレッシブ > に < IP 変換 > されます。
< 倍速 CP モード >	倍速高画質機能を使用できるようになります (倍速 CP モード)。 60 フレーム / 秒の動画が 120 フレーム / 秒に補間され、なめらかでくっきりとした画像が得られます。
	< オフ > 補間されません。
	< MIDDLE > 補間されます。(標準的な画像)
	< High > 保管されます。(よりなめらかでくっきりとした画像)
	注 : フレームの補間はノイズやちらつき発生させることがあります。ノイズやちらつきを抑えるには、< オフ > を選択してください。
< リモコンモード >	ワイヤレスリモコン操作をロックできます。 以下の 4 つのモードから ▲ / ▼ ボタンを使って選び、< SET > ボタンを押して確定します。
	< ノーマル > すべてのリモコン操作が可能
	< PRIMARY > RS-232C で複数台が接続されている液晶ディスプレイのうち、1 台目が (MODEL) < PRIMARY > に指定されます。
	< SECONDARY > RS-232C で複数台が接続されている液晶ディスプレイのうち、1 台目以外は (MODEL) < SECONDARY > に指定されます。
	< LOCK > リモコン操作はできません。
	注 : リモコンの < DISPLAY > ボタンを 5 秒以上押し続けると、< ノーマル > モードが作動します。本体背面の操作ボタンからワイヤレスリモコンのロックをすることもできます。62 ページをご覧ください。
< TILING >	< TILING > 機能では、画像を分割・拡大して、複数の画面にわたって表示します。入力映像を水平・垂直に最大 5 分割し、最大 25 台の液晶ディスプレイ (5 × 5) を並べて大きな 1 枚の画面にしたスクリーンに表示させることができます。
	注 : 各液晶ディスプレイに入力されるビデオ信号は、同じである必要があります。色合いを合わせるため各液晶ディスプレイを調整するためには、映像信号分配器 (市販品) の使用をおすすめします。
	< TILING > モード動作中は、< 子画面設定 >、< POP >、< SBS >、< STILL > モードは機能しません。
	< TILING > モードは < REAL > ピクチャーサイズモードでは機能しません。
	< TILING > モード動作中は、< 詳細設定 1 >、< スクリーンセーバー > の < MOTION > を < オン > にできません。
< 水平位置 > 水平分割する画像数を選択します。	

モード	機能
	<p>< 垂直位置 > 垂直分割する画像数を選択します。</p> <p>< POSITION > 拡大したい画面領域を選択します。</p>
	<p>< FRAME COMP > 複数の液晶ディスプレイに映像を表示するときに、ベゼル幅を補正して、なめらかで自然な映像にするモードです。</p> <p>< ENABLE > < オン > を選ぶと、選択した画面領域の映像が拡大されます。</p>
< HEAT STATUS >	<p>冷却ファン、ブライトネス、内部温度の状態が表示されます。</p> <p>注：冷却ファンは、仕様環境温度に応じて、< スクリーンセーバー > メニューで < COOLING FAN > が < オン > に設定されているときに動作します。</p> <p>使用環境温度が動作保証の範囲を著しく超える場合は、< TEMPERATURE WARNING > メッセージが画面に表示されます。</p>
< パワーオンディレイ >	<p>スリープモードからの回復や電源オンの際、起動するまでの時間を設定することができます。時間は、< OFF >、2、4、6、8、10、20、30、40、50 秒から選択できます。</p>
< 端子設定 >	<p>< HDMI1 >、< HDMI2 >、< DVI-D > 信号を機器の信号形式に応じて表示させることができます。</p>
	<p>< HDMI SIGNAL > < HDMI1 >、< HDMI2 >、< OPTION > (OPS 準拠モジュール装着の場合) を表示する設定です。</p> <p>< FULL > は、256 階調すべて (0 ~ 255 階調) を使用する信号を表示するときに選択します。コンピュータからの入力信号は主にこのモードを使用します。</p> <p>< LIMITED > は、RGB 各色 256 階調のうち 16 ~ 235 階調を使用する映像を表示するときに選択します。映像機器からの入力信号は主にこのモードを使用します。</p>
	<p>< HDMI MODE > < HDMI1 >、< HDMI2 > 信号を表示する設定です。</p> <p>< HDMI-HD > は映像機器からの信号を表示するときに選択します。</p> <p>< HDMI-PC > はコンピュータからの信号を表示するときに選択します。</p>
	<p>< DVI MODE > < DVI-D > 信号を表示する設定です。</p> <p>< DVI-PC > はコンピュータからの信号を表示するときに選択します。</p> <p>< DVI-HD > は映像機器からの信号を表示するときに選択します。</p>
< DDC/CI >	<p>DDC/CI 通信機能をオン、オフにするときに使用します。</p> <p>通常のご使用には < ON > を選択します。</p>
	<p>字幕の表示 / 非表示を選択できます。</p>
	<p>< OFF > 字幕は非表示になります。</p>
	<p>< CC1 > 主音声と同期して字幕が表示されます。</p>
	<p>< CC2 > 主音声と関連した情報が非同期で表示されます。</p>
	<p>< CC3 > 副音声と同期して字幕が表示されます。</p>
< CLOSED CAPTION >	<p>< CC4 > 副音声と関連した情報が非同期で表示されます。</p>
	<p>< TT1/TT2/TT3/TT4 > 表示映像と関連のない 4 種類の情報が表示されます (ニュース、天気予報など)。</p>
	<p>注：映像ソフトや外部映像機器が EIA-608-A に準拠しているかを事前に販売店にご確認ください。</p> <p>映像信号が EIA-608-A に準拠していない場合、映像が正しく表示されないことがあります。</p>
< USB UPSTREAM >	<p>2つのアップストリームポートどちらかを選び、2つのダウンストリームポートに信号を配信できます。</p>
	<p>< EXTERNAL > 外部コンピュータが選択されます。</p>
	<p>< OPS > OPS 準拠モジュールが選択されます。</p>
< アドバンストオプションリセット >	<p>< アドバンストオプション > メニューにある設定が工場出荷値にリセットされます。</p> <p>< HDMI MODE >、< DVI MODE >、< DDC/CI > はリセットされません。</p>

第4章

その他の機能

映像サイズ

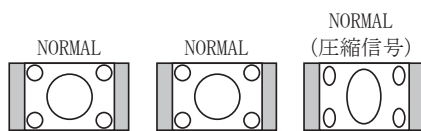
< HDMI1 >、< HDMI2 >、< DVI-D >、< D-SUB >、< OPTION > (OPS 準拠モジュール)、< DISPLAYPORT >

FULL → NORMAL → CUSTOM → REAL

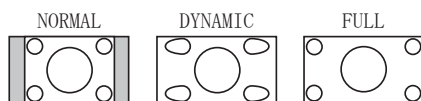
< YPbPr >、< VIDEO >、< S-VIDEO >

FULL → NORMAL → DYNAMIC → CUSTOM → REAL

各信号の
標準サイズ



推奨サイズ



< NORMAL > :

コンピュータやDVDなどの外部機器からの映像を、そのままのアスペクト比で、画面にあうように表示します。

< FULL > :

映像を画面いっぱいに表示します。

< DYNAMIC > :

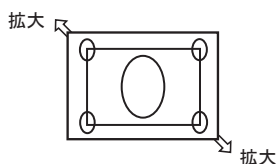
4 : 3 の映像を画面いっぱいに非線形に引き伸ばして表示します。(円形の画像は引き伸ばされたときに切り取られることがあります。)

< CUSTOM (ZOOM) > :

表示領域よりも大きく映像を引き伸ばすことができます。表示領域の外の映像は表示されません。

< REAL > :

映像を元の大きさのまま表示します。



映像モード

< HDMI1* >、< HDMI2* >、< DVI-D >、< D-SUB >、< OPTION > (OPS 準拠モジュール)、< DISPLAYPORT >

高輝度 → 標準 → sRGB

< HDMI1* >、< HDMI2* >、< YPbPr >、< VIDEO >、< S-VIDEO >

高輝度 → 標準 → 映画

* 入力信号に応じて自動で選択されます。

操作ロックモード

ボタンが押されても調整した映像が変更されないように、操作ボタンをロックすることができます。操作ロックをするには、本体の▲ / ▼ボタンを両方同時に3秒以上押します。操作ロックを解除するには、もう一度本体の▲ / ▼ボタンを両方同時に3秒以上押します。

画面設定情報について

< HDMI1 >、< HDMI2 >、< DVI-D >、< D-SUB >、< DISPLAYPORT >

DVI-D	← 選択中の入力 (DVI-D)
1024 × 768) ← 解像度 水平・垂直周波数
48kHz 60Hz	
音声：アナログ	← 音声入力モード
サイズ：フル	← 映像サイズモード

< OPTION > (OPS準拠モジュール)

OPTION : PC	← 選択中の入力 (< OPTION > (OPS準拠モジュール))
1920 × 1080) ← 解像度 水平・垂直周波数
67kHz 60Hz	
音声：OPS準拠モジュール	← 音声入力モード
サイズ：フル	← 映像サイズモード

< YPbPr >

YPbPr	← 選択中の入力 (< YPbPr >)
音声：アナログ	← 音声入力モード
サイズ：フル	← 映像サイズモード

< S-VIDEO >、< VIDEO >

S-VIDEO	← 選択中の入力 (< S-VIDEO >)
NTSC	← カラーシステムモード
音声：アナログ	← 音声入力モード
サイズ：フル	← 映像サイズモード

< 子画面設定 >、< POP >

親画面：< DVI-D >

子画面：< S-VIDEO >

DVI-D) ← 親画面映像情報
1024 × 768	
48kHz 60Hz) ← 子画面映像情報
音声：アナログ	
S-VIDEO	← 音声入力モード
NTSC	← 親画面映像サイズ
サイズ：フル	

音声入力の切り換え

< AUDIO INPUT > ボタンを使つて音声入力を選択できます。選択中のビデオ信号によって選択できる音声入力は異なります。

ビデオ入力信号の選択	動作
< HDMI1 > または < HDMI2 >	アナログ ↔ HDMI* ←
< DVI-D >	< ANALOG > のみ
< D-SUB >	アナログ ↔ OPS アナログ ↔ OPS デジタル ←
< OPTION** > コンピュータ (OPS 準拠モジュール)	アナログ ↔ DISPLAYPORT ←
< DISPLAYPORT >	< ANALOG > のみ
< YPbPr >	< ANALOG > のみ
< S-VIDEO >	< ANALOG > のみ
< VIDEO >	< ANALOG > のみ

*選択中の < HDMI1 > または < HDMI2 > の音声は、 < HDMI > 音声として出力されます。

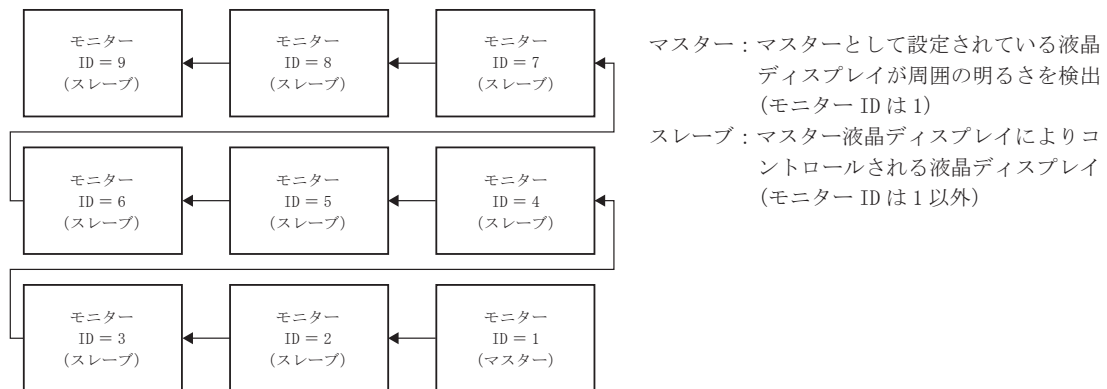
** < OPTION > は拡張モジュールがオプションスロットに装着されているときに使用できます。

オートブライトネス機能についての補足情報

複数の液晶ディスプレイを1つのグループとして操作する場合

複数の液晶ディスプレイを1つの画面として使う機能を使用中は、一台の照度センサーの検出結果を接続されている液晶ディスプレイに適用してオートブライトネスを操作できます。

- 1 下図のように RS-232C ケーブル（市販品）を使つて複数の液晶ディスプレイを接続している場合



- 2 マルチ接続されている各液晶ディスプレイ（Model）に <モニター ID > 機能で ID 番号を割り当てます。（56 ページをご覧ください。）モニター ID は 1 ～ 26 から選べます。マスター液晶ディスプレイは 1、スレープ液晶ディスプレイは 1 以外の必要があります。番号は 1、2、3 と連続的にすることをおすすめします。
- 3 OSD 画面（ <映像設定 > ）で <オートブライトネス > を下記のように設定します。

	<オートブライトネス >	< CONTROL >
マスター液晶ディスプレイ	< LOCAL >	< PRIMARY >
スレープ液晶ディスプレイ	< REMOTE >	< SECONDARY >

コンピュータで液晶ディスプレイを操作する場合

本機の操作にコンピュータを使用される場合は、アプリケーションソフトをご自身でご用意ください。液晶ディスプレイのうち 2 台の照度センサーの値を遠隔操作で読み取り、他の液晶ディスプレイに配信することができる操作アプリケーションをご自身で作成すれば、すべての液晶ディスプレイのブライトネスをコンピュータで一元的に管理することができます。

- 1 上図のマスター液晶ディスプレイの RS-232C 入力コネクタとコンピュータの RS-232C コネクタを RS-232C ケーブル

で接続します。LAN 経由の通信操作機能は本機単独では対応していませんが、本機がコンピュータに接続されている場合は使用可能です。

- 2 <モニター ID >機能を使って、マルチ接続 (Model) された各液晶ディスプレイに ID 番号を割り当てます。(56 ページをご覧ください。) モニター ID は 1 ~ 26 から選択可能です。
- 3 OSD 画面 (<映像設定>) で<オートブライツネス>を以下のように設定します。

	<オートブライツネス>	< CONTROL >
マスター液晶ディスプレイ	< REMOTE >	< SECONDARY >
スレーブ液晶ディスプレイ	< REMOTE >	< SECONDARY >

- 4 ご自身で作成した操作アプリケーションで、液晶ディスプレイのうち 2 台の明るさセンサーの値を読み取り、他の液晶ディスプレイに配信します。通信コマンドの仕様については、販売店にご相談ください。

子画面設定

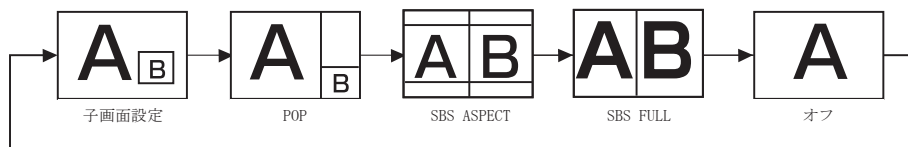
下の図は<「子画面設定」>、<「親画面」>のそれぞれのモードで機能する入力信号の組み合わせです。ただし、これらのモードはスクリーンサイズが<「CUSTOM」>または<「REAL」>のときは機能しません。

		子画面								
		< HDMI1 >	< HDMI2 >	< DVI-D >	< D-SUB >	< OPTION* >	< DISPLAY PORT >	< YPbPr >	< S-VIDEO >	< VIDEO >
親画面	< HDMI1 >	X	X	X	X	X	X	X	○	○
	< HDMI2 >	X	X	X	X	X	X	X	○	○
	< DVI-D >	X	X	X	X	X	X	X	○	○
	< D-SUB >	X	X	X	X	X	X	X	○	○
	< OPTION* >	X	X	X	X	X	X	X	○	○
	< DISPLAY PORT >	X	X	X	X	X	X	X	○	○
	< YPbPr >	X	X	X	X	X	X	X	○	○
	< S-VIDEO >	○	○	○	○	○	○	○	X	X
	< VIDEO >	○	○	○	○	○	○	○	X	X

○ : 対応しています X : 対応していません

*< OPTION > はオプションスロットに拡張モジュールが装着されているとき使用できます。

リモコンの< PIP ON/OFF > ボタンを押すと、< 子画面設定 >、< PIP >、< SBS > モードを下の図の順番で切り換えることができます。また、OSD メインメニューの< 子画面 >、< 子画面モード > 設定でモードを切り換えることもできます。53 ページをご覧ください。



< 子画面設定 > および < SBS FULL > モードの解像度は以下の通りです。

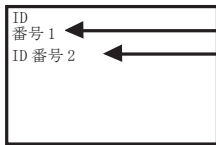
< 子画面サイズ >	< SMALL >	: 450 ピクセル X 338 ピクセル
	< MIDDLE >	: 675 ピクセル X 450 ピクセル
	< LARGE >	: 900 ピクセル X 675 ピクセル
< SBS FULL >		: 960 ピクセル X 1080 ピクセル

注 : < 子画面設定 > および < SBS FULL > モードの場合、子画面の画像は、入力画像のアスペクト比に関わらず、各モードの上記のサイズに合うよう調整されます。

リモートコントロール 番号割り当て機能

複数の液晶ディスプレイを RS-232C ケーブルでマルチ接続すると、いずれかまたはすべての液晶ディスプレイを 1 つのリモートコントローラーで操作できます。

- 1 <モニター ID>機能を使って、マルチ接続された各液晶ディスプレイに任意の ID 番号を割り当てます。ID 番号は 1 ～ 26 から選べます。1 から始めて、連続番号を割り当てることをおすすめします。
- 2 液晶ディスプレイ番号 1 は< PRIMARY >に設定され、その他の液晶ディスプレイは< SECONDARY >に設定されます。
- 3 リモコンを< PRIMARY >液晶ディスプレイのリモコン受光部に向け、リモコンの< DISPLAY >ボタンを押すと、画面左上に ID 選択画面が表示されます。



現在見ている液晶ディスプレイの ID 番号

操作したい液晶ディスプレイの ID 番号をリモコンの + / - ボタンで選択します。操作したい液晶ディスプレイの ID 番号は、その液晶ディスプレイの画面左上に表示されています。を選択すると、マルチ接続されている液晶ディスプレイすべてを操作できるようになります。

- 4 リモコンを< PRIMARY >液晶ディスプレイのリモコン受光部に向けます。選択した ID の番号のある OSD 画面が表示されます。

注：

ID 選択 OSD 画面が< PRIMARY >液晶ディスプレイに表示されている場合、ID 選択画面をキャンセルし、選択した液晶ディスプレイを操作するには、リモコンの< DISPLAY >ボタンをもう一度押します。リモートコントロールモードを間違えて設定した場合や、リモコン操作ができなくなったら、本体の操作パネルのボタンをどれか押すと、OSD 画面が表示され、< アドバンスオプション > モードでリモートコントロールモードを切り換えることができます。リモートコントロールモードを< NORMAL >に初期化するには、リモコンの< DISPLAY >ボタンを 5 秒以上押します。

第5章

故障かな？と思ったら

一般的な解決方法

まず液晶ディスプレイの電源プラグを壁コンセントから抜き、およそ1分間お待ちください。その後、電源プラグを壁コンセントに差し込んでください。症状が改善されない場合は、解決法を試してみてください。

映像が出ない

- ・ 信号ケーブルをディスプレイカードやコンピュータにしっかりと接続してください。
- ・ ディスプレイカードをスロットにしっかりと入れてください。
- ・ 本体の主電源およびコンピュータの電源スイッチが「入」か確認してください。
- ・ ディスプレイカードやシステムで正しいモードが選択されていることを確認してください。(画像モードを変える際は、ディスプレイカードやシステムの取扱説明書をご覧ください。)
- ・ 本機とディスプレイカードの互換性および設定を確認してください。
- ・ 信号ケーブルコネクタが曲がっていたり、ピンが押し込まれていないか確認してください。

電源ボタンが反応しない

- ・ 本体の電源コードをコンセントから抜いて電源を切り、リセットしてください。

画面の残像

- ・ 液晶技術には、「残像」として知られている現象があることにご留意ください。残像は、前の画像のあとや「ゴースト」が画面に残ったときに発生します。CRTディスプレイとは異なり、液晶ディスプレイの残像は一時的な現象ですが、静止画を長時間表示させることは避けてください。残像を解消するには、前の画像が表示されていたのと同じ時間、液晶ディスプレイの電源を切ったままにしてください。例えば、前の画像が1時間表示されていて、残像が残っているときは、残像を消すために1時間は電源を入れないでください。

注：ほかのディスプレイ機器と同様に、スクリーンが待機中のときは、動画を表示させるか、一定間隔で動きのあるスクリーンセーバーを使うこと、また、使用していないときは電源を切ることをおすすめします。

画像が不安定、焦点が合わない、ちらつきがある

- ・ 信号ケーブルをコンピュータにしっかりと接続してください。
- ・ OSDメニューの映像設定機能を使い、調整値を増減して画面の焦点合わせや調整をしてください。表示モードを変更したときは、OSD映像設定を再調整する必要がある場合があります。
- ・ 本機とディスプレイカードの互換性および信号タイミングを確認してください。
- ・ 文字がゆがんで見える場合は、映像モードをノンインターレースモードに変更し、リフレッシュレートを60 Hzに変更してください。

コンポーネント信号の画像が緑色をおびている

- ・ YPbPr入力コネクタに接続されていることを確認してください。

本体の電源表示ランプが点灯しない（緑色や赤色が見えない）

- ・ 電源スイッチが「入」になっていること、電源コードが接続されていることを確認してください。
- ・ コンピュータが省電力モードになっていないことを確認してください。(キーボードやマウスを触ってください。)

本体の電源表示ランプが赤色に点滅している

- ・ 故障の可能性があります。販売店にご相談ください。

画像のサイズが正しく表示されない

- OSD 画像調整機能を使って粗調整をしてください。
- ご利用のディスプレイカードまたはシステムで正しいモードが選択されているか確認してください。(画像モードを変更するには、ディスプレイカードまたはシステムの取扱説明書をご覧ください。)

音が出ない

- スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
- 消音機能がオンであることを確認してください。
- 音量が最小であることを確認してください。

ワイヤレスリモコンが動作しない

- バッテリー残量を確認してください。
- 乾電池が正しく入っていることを確認してください。
- ワイヤレスリモコンが液晶ディスプレイのリモコン受光部に向いていることを確認してください。

<スケジュール>・<オフタイマー>が正しく動作しない

- <オフタイマー>が設定されているときは、<スケジュール>機能は動作しません。
- <オフタイマー>機能が<オン>のとき、不用意に電源が切れるなどして液晶ディスプレイの電源が切れた場合は、<オフタイマー>がリセットされます。

特定のディスプレイパターンでは、縦か横の縞模様が見られることがあります。これは故障や劣化ではありません。

付録 A

仕様

注：

- ・本モデルは下記の仕様に適合しています。
- ・意匠・仕様は予告なく変更される場合があります。
- ・本モデルは将来開発される機能や仕様との互換性がない可能性があります。

液晶モジュール

	TD-Z421	TD-Z471
画面寸法 (対角)	42 インチ (1067mm)	46.96 インチ (1193mm)
液晶表示方式	IPS 方式	IPS 方式
画素ピッチ	0.485mm	0.542mm
画素数	1920 x 1080 ピクセル	1920 x 1080 ピクセル
表示色	約 10 億 7000 万色	約 10 億 7000 万色
輝度	700cd/ m ²	700cd/ m ²
コントラスト比	1300 : 1	1300 : 1
視野角 (CR >= 10)	上下 178°、左右 178°	上下 178°、左右 178°
応答速度	12ms (Gray to Gray)	12ms (Gray to Gray)

有効表示領域 (H x V)

TD-Z421	930.3mm x 523mm / 36.6 x 20.6 インチ
TD-Z471	1039.7mm x 584.8mm / 40.9 x 23.0 インチ

パワーマネジメント

VESA DPM 準拠

電源

	TD-Z421	TD-Z471
電源電圧 / 電流	AC100-240V, 50/60Hz, 1.9A-0.8A	AC100-240V, 50/60Hz, 2.2A-1.0A
省電力時の消費電力	スリープモード時 0.8W 未満 電源スイッチ「切」時 0.8W 未満 主電源「切」時 0W	

消費電力

TD-Z421	181W (スピーカー、拡張スロット未設置時 118W)
TD-Z471	220W (スピーカー、拡張スロット未設置時 140W)

外付けスピーカー出力

外付けスピーカー、インピーダンス 8 Ω、音声出力 10W + 10W (ステレオ)

入力・出力信号**コンピュータ入力・出力**

入力コネクタ	アナログ	ミニ D-SUB15 ピン (PC/AV 共通)
	デジタル	HDMI × 2 (PC/AV 共通)、DVI-D (HDCP 対応)、DISPLAYPORT
出力コネクタ	デジタル	DVI-D (HDCP 対応)
水平周波数	アナログ	15.625/15.734、31.5 kHz - 91.1 kHz、デジタル : 31.5 kHz - 91.1 kHz
垂直周波数		50/58 Hz - 85 Hz
ピクセルクロック	アナログ	13.5 - 165.0 MHz
	デジタル	25.0 - 165.0 MHz
映像信号		アナログ : アナログ RGB、デジタル : TMDS (HDCP 対応)
同期信号		アナログ : セパレート (TTL)、コンポジット (TTL)、シンクオングリーン、デジタル : TMDS
サポート解像度		640 × 480、800 × 600、1024 × 768、1280 × 768、1360 × 768、1280 × 1024、1600 × 1200 (圧縮 / 単純化)、1920 × 1080、1920 × 1200 (圧縮 / 単純化)

ビデオ入力・出力

入力コネクタ	アナログ	コンポジット < BNC >、セパレート (Y/C) < S 端子 > (15 ピンミニ D-SUB) (PC/AV 共通)、コンポーネント (Y/Pb/Pr)
	デジタル	HDMI × 2 (PC/AV 共通)、DVI-D (HDCP 対応、PC/AV 共通)
出力コネクタ	アナログ	コンポジット < BNC >
サポート解像度		コンポジット / S 端子 : NTSC、PAL、SECAM、4.43 NTSC、PAL-60 コンポーネント : 480i、480p、576i、576p、1080i、720p、1080p

音声入力・出力

入力端子	アナログ	ø3.5mm ステレオミニジャック
	デジタル	HDMI × 2 (デジタル音声)、DISPLAYPORT
出力端子	アナログ	ø3.5mm ステレオミニジャック

オプションスロット

オプションスロット	スロットインターフェース	デジタル (OPS) スロット
内蔵スピーカー出力		音声出力 10W + 10W (ステレオ)
コントロール入力 / 出力	入力コネクタ	RS-232C < D-SUB9 ピン >、LAN < 8 ピンモジュラー >
	出力コネクタ	RS-232C < D-SUB9 ピン >

外形寸法、製品質量

製品寸法(梱包状態)

42 インチ	幅	970mm (1097mm)
	高さ	563mm (677mm)
	奥行	47mm (210mm)
47 インチ	幅	1080mm (1210mm)
	高さ	625mm (738mm)
	奥行	47mm (210mm)

製品質量(梱包状態)

42 インチ	15.0kg (20.0kg)
47 インチ	17.0kg (21.5kg)

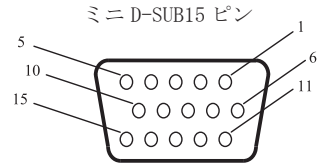
注：技術的な仕様は予告なく変更することがあります。

- 液晶画面は、非常に精度の高い技術で作られており、微細な画素の集合で表示しています。99.99%以上の有効画素があり、ごく一部（0.01%以下）に光らない画素や、常時点灯する画素などがありますが、故障ではありませんので、ご了承ください。
- 静止画をしばらく表示したあとで映像内容が変わった時に、前の静止画が残像として見えることがありますが、自然に回復します。（故障ではありません。）

ピンアサイン

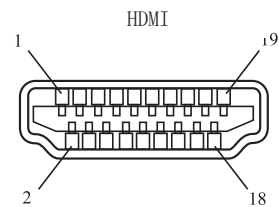
アナログRGBコネクタ：D-SUB

ピン番号	名称	ピン番号	名称
1	映像信号 赤	9	+ 5VDDC
2	映像信号 緑	10	同期 - GND
3	映像信号 青	11	GND
4	GND	12	DDC - SDA
5	DDC-GND	13	水平同期信号
6	赤 -GND	14	垂直同期信号
7	緑 -GND	15	DDC-SCL
8	青 -GND		



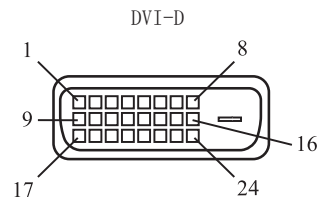
デジタルRGB入力：HDMI

HDMI コネクタのピンアサイン			
1	TMDS データ 2 +	11	TMDS クロック シールド
2	TMDS データ 2 シールド	12	TMDS クロック シールド -
3	TMDS データ 2 -	13	CEC
4	TMDS データ 1 +	14	未使用 (N.C. デバイス上)
5	TMDS データ 1 シールド	15	SCL
6	TMDS データ 1 -	16	SDA
7	TMDS データ 0 +	17	DDC/CEC 接地
8	TMDS データ 0 シールド	18	+ 5V 電源
9	TMDS データ 0 -	19	ホットプラグ検出
10	TMDS クロック +		



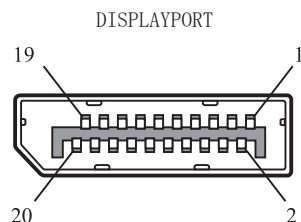
デジタルRGB入力：DVI-D

DVI-D コネクタのピンアサイン			
1	TMDS データ 2 -	13	NC
2	TMDS データ 2 +	14	+ 5V 電源
3	TMDS データ 2 シールド	15	接地 (+ 5V、水平同期、垂直同期のリターン)
4	NC	16	ホットプラグ検出
5	NC	17	TMDS データ 0 -
6	DDC クロック	18	TMDS データ 0 +
7	DDC データ	19	TMDS データ 0 シールド
8	アナログ水平同期	20	NC
9	TMDS データ 1 -	21	NC
10	TMDS データ 1 +	22	TMDS クロック シールド
11	TMDS データ 1 シールド	23	TMDS クロック +
12	NC	24	TMDS クロック -



デジタルRGB入力 : DISPLAYPORT

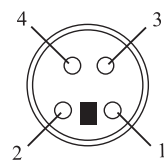
ピン番号	名称	ピン番号	名称
1	ML_Lane 3 (n)	11	GND Top
2	GND	12	ML_Lane 0 (p)
3	ML_Lane 3 (p)	13	CONFIG1
4	GND	14	CONFIG2
5	ML_Lane 2 (p)	15	AUX CH (p)
6	ML_Lane 1 (n)	16	GND
7	DDC データ	17	AUX CH (n)
8	GND	18	ホットプラグ検出
9	ML_Lane 1 (p)	19	リターン
10	ML_Lane 0 (n)	20	DP_PWR



S-ビデオ 入力 (ミニDIN4ピン)

ピン番号	名称
1	GND
2	GND
3	Y (輝度)
4	C (彩度)

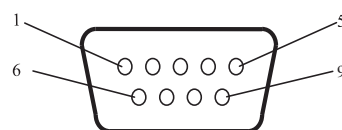
ミニ DIN4 ピン



RS-232C 入力・出力

ピン番号	名称	ピン番号	名称
1	NC	6	NC
2	RXD	7	NC
3	TXD	8	NC
4	NC	9	NC
5	GND		

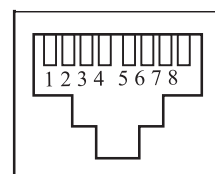
ミニ D-SUB15 ピン



LAN(8ピンモジュラー)

ピン番号	RJ45	信号	ペア
1		橙 / 白 ストライプ	□
2		橙	
3		緑 / 白 ストライプ	□
4		青	
5		青 / 白 ストライプ	
6		緑	
7		茶 / 白 ストライプ	□
8		茶	

8 ピンモジュラー





HDA51C4711I